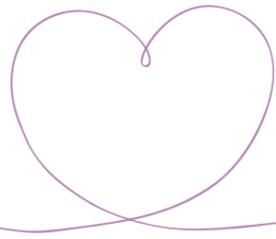


OTSUMA GAKUIN
since 1908

110th
ANNIVERSARY

輝け！女子たち



1936(昭和11)年 竣工

学校法人大妻学院創立110周年記念 2018年(平成30年)11月1日発行

編集発行 | 学校法人 大妻学院
編集協力 | 一般財団法人 大妻コタカ記念会
制作 | 株式会社 京王エージェンシー

 大妻学院

110周年を迎えて

1908年に創立者大妻コタカが裁縫・手芸の私塾を開いて以来、この2018年に本学院は110年を迎えます。この110年の間、本学院は、「女性の自立のための女子一貫教育」を建学の理念とし、豊かな教養と思いやりの心を持ち合わせた女性、実技実学を身につけ、社会において指導的役割を果たせる専門職業人たる女性を育成することを課題として、教育実践を進めてきました。

21世紀に入って約20年がたちましたが、この20年の間だけでも、世界や日本は急速な変化を経験しています。ブレグジット、トランプ政権の誕生、移民排斥、頻発するテロなど、第二次世界大戦後、長く続いてきたグローバル化の流れが、今、大きく旋回しようとしています。また、国内を見ても、少子高齢社会に直面するなかで、これからは人口急減期に入り、現在120万人を数える18歳人口は、2031年には100万人を切り、2040年には80万人を切るかと推計されています。

他方で、女性に対しても、より多様で多面的な生き方が求められるようになりました。1999年に制定された男女共同参画社会基本法は、男女差別の解消、固定的な役割分担意識の克服、女性があらゆる決定に参加できる機会の確保、対等な家族構成員としての役割分担、国際的な政策協調を5本柱として、「職場、家庭、地域などのあらゆる場で、男女が対等の立場であらゆる分野の政策立案や決定に参画できる社会を実現する」という課題を掲げました。また、2015年には、女性活躍推進法が成立し、「自らの意思によって働き又は働こうとする女性が、その思いを叶えることができる社会、ひいては、男女がともに、多様な生き方、働き方を実現でき、ゆとりがある豊かで活力あふれる社会の実現を図る」ことが課題とされました。

110周年を迎えるに当たり、本学院では、こうした新しい時代の文脈の中で、教育・研究の理念を再構築し、今後の本学院の展開の方向を定めるべく努力しています。その基本線は、学び続け、働き続けることのできる主体としての女性を育てることにあります。広く世に知られる本学院の校訓「恥を知れ」も、自己規律の言葉、自分自身を鍛えていく言葉であると同時に、さまざまな人間関係のなかで自らの位置を確定し、ひとに共感する能力を培う言葉として位置付けていきたいと考えております。

2017年7月のSD/FD研修会において、私は「明るい大妻、強い大妻、風通しの良い大妻」を実現していこう、というメッセージを提示しました。110周年を機として、教職員が一丸となってこの目標を達成していくことができるよう奮闘したいと決意しております。よろしくお願ひ申し上げます。

Contents

01	ごあいさつ
02	これからの大妻
03	創立者大妻コタカ・校主大妻良馬のあゆみ
05	写真でみる大妻の今
05	千代田キャンパス
07	多摩キャンパス
08	学生寮・附属施設
09	中学校・高等学校

11	学校紹介
11	大妻女子大学
12	家政学部
13	文学部
14	社会情報学部
15	人間関係学部
16	比較文化学部
17	大妻女子大学短期大学部
18	大妻女子大学大学院

19	大妻中学校・高等学校
20	大妻多摩中学校・高等学校
21	大妻中野中学校・高等学校
22	大妻嵐山中学校・高等学校
23	データでみる大妻学院
26	大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部 取得できる資格と各種協定等
27	大妻学院の歴史

ミッションの 再構築と中期計画の見直しについて

将来展開委員会 委員長 重吉 博右

理事長が指摘されているように、本学院を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。本学院がこの環境変化に適応し、むしろこれをチャンスと捉えてさらなる発展を遂げるべく、先般、理事長より将来展開委員会に対して「本学院のミッションの再構築と中期計画の見直し」について諮問があり、3月に第1次答申を終えて、現在第2次答申として、その実行フェーズ（行動計画）の策定に取り掛かっております。

今回の中期計画見直しのポイント(概略)は、次の4点です。

第1は、本学院のミッションの一つとして、どのような学生(女性)を育てて社会に送り出していくか、そして、そのためには教育機関としてどうあるべきかについて、再考したことです。

それは理事長が学長就任時に表明されたように、本学は「学び、働き続ける女性(Working woman, Working mother)の育成」に全力を傾注して取り組んでいくというものです。そして、その実現のために、「明るい大妻、強い大妻、風通しの良い大妻」の組織風土を構築し、新鮮な外からの風が絶え間なく吹き渡り、時代の変化の足音に耳を澄ませ、誤りなき環境適応が可能となるような学びの空間と職場環境を創生していこうという決意を示したものです。その基本的方向は第1次答申で示されましたが、この最も大事な命題について、さらに深く掘り下げた計画にするために、第2次答申で詳細な実行プランを策定することにしました。

第2は、本学院の大黒柱であります大学について、そのコンセプトの見直しを図るべき時期にきたのではないかとの問題意識から、この点についての提言を行ったことです。

18歳人口の減少と別学離れ・共学化が進行していく時代の中で、本学のブランド・イメージは果たしてこのままで良いのだろうか、という素直な問いかけが起点です。良妻賢母を育てる「教育の大妻」という世間的イメージが強い本学ですが、大きく世代替わりしたこれからの受験生・保護者に対しては、もっと魅力的なブランド・イメージを訴求していくことが必要なのではないかということです。

結論は、コタカ先生の時代を超えた人間教育理念は今後も尊重継承していかなければならないが、それだけでは大学サブイタル競争に勝ち残るのは困難であると判断し、勝ち残るためには、質の良い受験生層が受験してくれる大学でなければならない、それには大学のもうひとつのミッションである研究事業にも注力することによって、大妻にさらに知的なブランド・イメージを付加し、従来の「教育の大妻」から今後は「教育と研究の大妻」に大学のコンセプトを変えていく必要がある、ということです。

第3は、コタカ先生のチャレンジ精神をしっかりと継承し、後ろを振り返るのではなく常に前を見て、本学院の組織全般の不断の見直しを図っていかなければならないとする主体的な自己変容の覚悟を問うものです。

学院経営のあり方やガバナンスにつきましては、形式・制度的にはそれなりに整備されてきましたが、現状維持・保守的な姿勢の先に待ち受けているのは、脱落の危険性です。これからの時代は、言うまでもなくむやみに量的拡大に走る愚を犯すことは避けなければなりませんし、また、それがそもそも可能な時代でもありません。量が質を規定する時代は完全に終わり、質的変容を遂げなければ、女子校として生き残ることができないという、いわば質が生存を規定する時代に入ったという認識が必要です。このパラダイムシフトを教職員が共有認識し、一致協力して事務組織・教学組織さらにはそれを覆う学院風土をこの目的に相応しいものに変革していく必要があります。

第4は、今回の計画策定は、次代の大妻を背負う立場のミドル層の教職員に委任し、彼らが協力し合って取り組んでいくことにした点です。

それは大妻の将来は、次代に直接的な責任を負う機会のない人たちではなく、その次代の真ん中に存在する人たちに委ねることが最も相応しいと判断したためです。もちろん、最終的な決定は、本学院の全教職員を束ねる理事会になりますが、その過程において、彼らが提案した内容を本学院の教職員にフィードバックし、各員の多様な意見を吸収反映しながら、大妻全教職員の総意の成案として認知していくプロセスを尊重するつもりです。現在、その具体的な仕掛けを検討中です。

これまでの経緯と今後のスケジュール

2017年6月に、理事長から将来展開委員会に第1次諮問があり、委員会メンバーでミッションの再構築を検討するとともに、6つのテーマを設定して、総勢50名強の教職員から構成されるテーマごとのチームを組成し、検討を重ね、2018年3月に理事長に第1次諮問の答申を致しました。

第1次答申の後、理事長から将来展開委員会に、6つのテーマの中から、特に重要課題である「教育・研究活動活性化のために」と「戦略を意識した活動と働きやすい職場構築」のテーマについて、さらに深掘りするとともに、残りのテーマについても課題を絞り込んだ上でアクション・プランを策定し、2019年3月末に中期計画の実行フェーズの策定につき第2次答申を行うよう指示がありました。これを受けまして、現在、将来展開委員会は、教職員15名からなる第2次諮問に関する検討部会を設置し、上記命題について検討を開始しております。

創立者 大妻コタカ

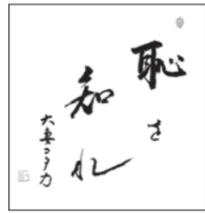
校主 大妻良馬のあゆみ



大妻コタカ



大妻良馬



校訓「恥を知れ」

「恥を知れ」という言葉は、四国土佐の郷土であった大妻良馬先生(コタカ先生のご夫君)の家に、代々「家訓」として伝えられていた。腕白小僧であった良馬少年は、母君にしばしば「恥を知れ」と叱られていたという。

1916年(大正5年)、手芸・裁縫の伝習所として成長してきたコタカ先生の家塾に学ぶ人達が、三越主催の「東京府下各女学校製作展覧会」に出品した。

その作品の卓越した出来ばえが、関係者に認められ、勧められて、各種学校となった。校名を「大妻技芸学校」と改めた1917年(大正6年)に、教職員・生徒達と話し合っ、この「家訓」と「校訓」を定めた。

なお、「校章」も大妻家の「家紋」である。「丸に糸巻き」の図柄は、円満な人格を表わす「丸」に女性の大事な仕事を象徴する「糸巻き」が、女子の学ぶ学校にふさわしいものとして定められた。

コタカ先生は折にふれ、「恥を知れ」の意味を教え子達に次のように説かれた。それは、大妻に学んだ多くの人々の心の中に、人生の指針として生きつづけている。

これは、決して他人に対して言うことではなくて、あくまでも自分に向かって言うことです。自分を高め、自分が自分の「良心」に対して『恥ずるような行いをするな』ということです。人に見られたり、聞かれて恥ずかしいようなことをしたかどうかと、自分を戒めることなのです。

すなわち、自らを高め、自らを律する厳しい心によって、「何が恥ずかしいことかを知る人となれ」ということを、平易な言葉で説かれたのである。

自分を律するものは「良心」であり、良心は、教養を積み、多くの体験を通じた厳しい反省によって高められるという考えは、コタカ先生において一貫した信念であったと言える。

(出典：「創立者 大妻コタカ先生言行録」より)

心の道しるべ

コタカ先生が「最愛の夫」と語られた大妻良馬先生もまた、苦学力行の方であった。日清・日露の戦役に従軍し、勇気と知力に抜擢された技術将校として金鷄勲章を受けられた。

コタカ先生との結婚前に退役、宮内省の技師となっておられた。コタカ先生の小さな家塾が、学校となり着実に発展してゆくのを終生全面的に支えられた。

この一文は、1921年(大正10年)、機関誌「白ゆり」創刊号に寄せられたもので、大妻教育の根源を示すものと言える。

心の道 大妻良馬

吾輩は世人の多くが、学問の博い人を直ちに人格者の如く誤解しておりはせんかと怪しむ一人である。

人の価値は修養にある。修養の問題は道心[※]でなくてはならぬ。※道徳心

学問を進むれば、道心の修養を容易ならしむるが故に、博く学問をした人は、従って道心が堅固であることは事実であるが、学問の深淺によって直ちに、その人格を計量することの誤りであるといふことは、断言してはばからないのである。

当学校の内容に示したる教育方針の中に「特に道徳の根本を教へ」と言ふ理由がここにあるのであって、今吾輩が提示せんとする定義がまた同一の意味である。

一、道徳に対する定義

問 道徳とは如何なるものなりや

答 謝恩の行為にして、すなはち受けたる恩義を感謝して、これに報ゆる行為を言ふ。

道徳とは自分が受けた恩義に「感謝」してこれに報いる「行為」を言う。

二、道徳中の一節、礼儀に対する定義

問 礼儀は自己に如何なる影響を及ぼすや

答 自己の人格をおのずから表はす行為にして、その行為の礼節に^{かな}適ふや、否やは、修養の深淺を証するものなり。

礼儀は自分の人格が自然と形に表われる行いであって、その行いが礼儀作法にあてはまっているか、いないかはその人の人格の深さ浅さを示すものである。

(出典：「創立者 大妻コタカ先生言行録」より)

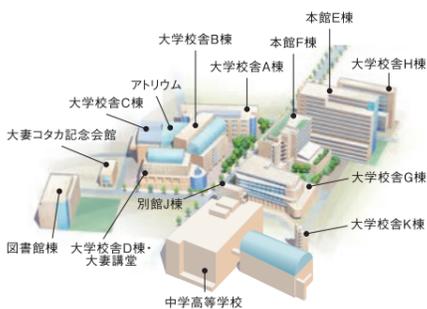
年号	大妻コタカ	大妻良馬
1871年(明治4年)		大妻良馬、高知県高岡郡戸波村永野(現土佐市)の医家、大妻定馬の三男として6月15日出生
1884年(明治17年)	熊田コタカ、広島県世羅郡三川村久恵(現世羅町)熊田小十郎第六子(末子)として6月21日出生、11月20日付で入籍	 コタカ先生の生家
1886年(明治19年)	コタカ3歳の時、父小十郎逝去(享年48歳)	
1891年(明治24年)	かぞえ8歳で川尻尋常小学校に入学	12月現役志願兵として工兵第5大隊に編入
1894年(明治27年)		2月陸軍工兵二等軍曹に任ぜられ、6月臨時野戦電信隊員として朝鮮仁川に上陸、日清戦争に従軍
1895年(明治28年)	3月川尻尋常小学校を卒業 4月世羅町本郷高等学校に入学	7月凱旋復員、戦功により勲八等瑞宝章及び従軍記章を賜う
1897年(明治30年)		8月試験検定により陸軍工兵監護(工兵曹長)に任ぜられ、工兵第三方面本署附に補せられ、10月陸軍工兵特務曹長に任ぜられる
1898年(明治31年)	コタカ14歳の時、母亀野逝去(享年52歳)	
1899年(明治32年)	3月広島県世羅郡立高等学校(4年)卒業 4月世羅郡教育会主催の裁縫講習所(甲山高等女学校の前身)に入学	
1900年(明治33年)	3月裁縫講習所を卒業 4月広島県世羅郡世羅西高等学校履修員となり、明治34年4月同校代用教員、5月同校訓導(裁縫専科勤務)、9月退職	
1901年(明治34年)	2月検定試験により広島県小学校裁縫専科正教員の免許状を取得	
1902年(明治35年)	1月広島県世羅郡三川村川尻尋常小学校代用教員となり7月退職 9月東京私立和洋裁縫女学校洋服速成科に入学、明治36年6月卒業 10月東京府教育会附属伝習所に入学、明治37年4月卒業	3月現役満期、後備役編入、善行証書を授与
1903年(明治36年)	9月東京私立和洋裁縫専門女学院和服速成科に入学、明治37年7月卒業	
1904年(明治37年)	6月無試験検定により東京府小学校裁縫専攻正教員ならびに尋常小学校本科準教員の免許状を授与 6月東京私立堅川小学校教員就職、明治39年3月依願退職 10月東京市本所区教育会主催の第10回黒板画法講習会及び明治38年2月同会第二回修身・国語訓練法等講習会修了	7月招集され工兵第11大隊に編入、8月野戦電信隊補充員を命じられ東京を出発、青泥窪港に上陸、日露戦争に従軍
1905年(明治38年)	1月東京児童遊戯研究会において体操の講習を修了 10月東京府教育会附属正教員養成所に入学、明治39年3月退学 12月東京市本所区小学校教員第1回講習会において国語科綴方教授法及び体操科を修了	2月陸軍工兵少尉に任ぜられ、奉天戦に参加、4月正八位に叙せられる

年号	大妻コタカ	大妻良馬
1906年(明治39年)	4月神奈川県師範学校女子講習科に入学、明治40年3月卒業 6月無試験検定により神奈川県小学校裁縫専科正教員の免許状を授与	4月明治37・38年戦役の功により、功五級金鷄勲章、勲六等単光旭日章及び従軍記章を賜う 5月陸軍を退職 12月宮内省匠寮雇を命じられる
1907年(明治40年)	4月神奈川県鎌倉郡鎌倉尋常高等小学校訓導となり、10月退職の後、退職 6月大妻良馬と結婚し、麴町区紀尾井町に居を定める	6月熊田コタカと結婚し、麴町区紀尾井町に居を定める
1908年(明治41年)	9月裁縫・手芸の家塾を開設(麴町区紀尾井町七番地、子爵大島久直大將邸内)	
1909年(明治42年)		9月山階宮臨時營繕係を嘱託 12月宮内省匠寮技手(判任官三等)に任命される
1910年(明治43年)		4月宮内省御陵墓管繕係に任命される
1916年(大正5年)	9月『家事文庫』出版 10月大妻技芸伝習所所長に就任	
1917年(大正6年)	2月私立大妻技芸学校校長に就任	
1919年(大正8年)		10月従七位に叙される 12月判任官一等となる
1921年(大正10年)		10月宮内省技師(高等官六等)に任命される(正七位に叙される) 宮内省退官、大妻学校校長に就任
1926年(大正15年/昭和元年)		5月『吾等の信念』出版
1929年(昭和4年)	3月財団法人大妻学院理事長就任 5月大妻夫妻全財産を法人に寄付	3月17日逝去(享年57歳) 3月24日葬儀 4月21日多磨墓地に埋葬
1930年(昭和5年)	10月教育勅語40年式典に私立高等女子校代表として皇居前にて奉答文を読む	
1937年(昭和12年)	8月世界教育会議(会場＝現東大)において「日本女子中等学校及び専門学校における手工芸教育について」を発表	 河原春作先生と語るコタカ先生
1947年(昭和22年)	4月公職追放を受ける	
1952年(昭和27年)	5月公職追放解除により理事長復帰	
1954年(昭和29年)	5月教育功労者として藍綬褒章受章	
1961年(昭和36年)	4月学長・校長に就任 11月自伝「ごもくめし」出版	
1964年(昭和39年)	4月教育功労者として勲三等宝冠章受章 9月入院	
1969年(昭和44年)	12月再入院	
1970年(昭和45年)	1月3日東京女子医科大学病院で脳軟化症により逝去(享年85歳) 1月6日講堂において告别式を挙行 1月7日従四位勲二等瑞宝章受章 2月5日多磨墓園に埋葬	

写真でみる
大妻の今

千代田キャンパス

各国大使館や国立劇場、千鳥ヶ淵が徒歩圏内にあり、都心でありながらも落ち着いた環境に囲まれているキャンパス。本館E・F棟に続き、千代田キャンパス再開発プロジェクトにより、2016年に大学校舎H棟、2017年に大学校舎G棟が完成しました。



●G棟外観

●多目的アリーナ



●コタカフェアネックス

●ゼミ室



●アクティブラウンジ



●大学校舎外観



●J棟外観



●コミュニティテラス

●H棟外観



●情報処理教室



●B棟 被服実習室



●講義室



●C棟 体育館



●教職実践演習室



●器楽練習室



●被服造形実習室



●E・F棟外観

●テラス



●就職支援センター資料室



●調理実習室



●大妻講堂



● 正門

● 学園通り

● 4号館(図書館棟)前

● 全学共用運動場

写真でみる
大妻の今

多摩キャンパス

四季の彩りが美しく、ケヤキ並木が続く学園通りが印象的なキャンパス。各種実験室や研究室など充実した学習環境が魅力です。



● 2号館(学生会館) 3F大講義室



● 5号館(体育館棟) 体育館



● 3号館 1Fラウンジ



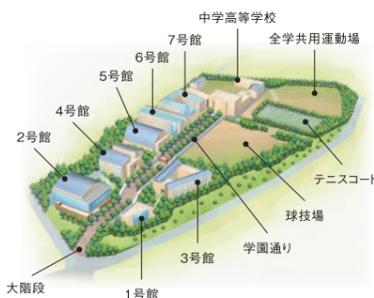
● 4号館(図書館棟) 図書館



● 6号館 1Fエントランス



● 7号館 外観



学生寮

学生が自ら学び、社会に貢献するための教養や人間性を育むための環境を整えた大妻加賀寮を有しています。

写真提供:佐藤宏尚建築デザイン事務所



● 加賀寮 外観



● 個室



● シェアルーム



● 中庭



● エントランス



● 併設カフェ



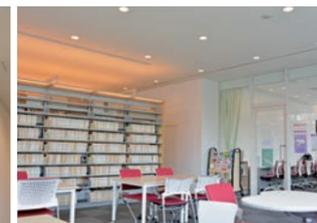
● 和室

附属施設

本学の教育研究活動を支援し、学内外で多彩な活動をしている附属施設です。



● 人間生活文化研究所



● 図書館



● 健康センター



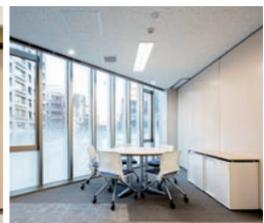
● 心理相談センター



● 学生相談センター



● 博物館



● キャリア教育センター



● 教職総合支援センター



● 国際センター



● 地域連携推進センター



● 英語教育研究所



● 児童臨床研究センター



● 草稿・テキスト研究所



● 管理栄養士スキルアップセンター

大妻中学校・高等学校

緑深く閑静な三番町に佇む、地下1階・地上9階建ての校舎です。しっかりと耐震を備えた建物で、内部は、白木を多用した温かみのある空間となっています。



大妻中野中学校・高等学校

講演、プレゼン、討論、おしゃべり、食事…。

本校の文化の中心「コスモスアゴラ」、そして、特別教室を含めて、全ての教室は世界に開かれた「ICT環境」になっています。



写真でみる
大妻の今



大妻多摩中学校・高等学校

緑豊かな自然に囲まれた校舎。2015年に完成した図書館棟(アカデミア棟)が自慢です。



大妻嵐山中学校・高等学校

鎌倉街道、嵐山菅谷館跡の森につつまれる校舎。廊下との境界をガラス張りにしたオープンな理科実験室、図書館・職員室・進路指導コーナーが一体化したオープン・ラーニングコモンズで生徒たちが学んでいます。



家政学部

被服学科	食物学科(食物学専攻、管理栄養士専攻)
児童学科(児童学専攻、児童教育専攻)	ライフデザイン学科

“生活”を学び、生活の質的向上を目指す

家政学部では、新しい時代に求められる学びをリードする「未来志向型サイエンス」を軸に教育を行い、自立心あふれる職業人の育成を教育の方針としています。本学家政学部は、被服学科、食物学科(食物学専攻、管理栄養士専攻)、児童学科(児童学専攻、児童教育専攻)、ライフデザイン学科の4学科から構成されています。「衣・食・住」3領域のほか、人に関わる発達、保育・教育、家族関係、それらを統合する生活経営など、家庭生活を中心とする「人間の生活」を総合的に学びます。さらに、個人、家族、コミュニティに関わる生活の質的向上のための実践方法を学びます。各学科は、それぞれの専門的視点から、社会のさまざまな問題を科学的に分析し、解決できる力を、教養及び専門教育、そして実験・実習・演習、体験学習等の実践的教育を通して培います。

【被服学科】	【食物学科】	【児童学科】	【ライフデザイン学科】
衣を通して生活の美と知を学び、新しい価値と豊かな心をはぐくみ、夢のある社会の形成に参画できる人を育成	「食」の専門家として高度な技術と知識を身につけ、社会に貢献できる人材を育成	子どもの立場でかんがえることができる専門家を育成	21世紀にもとめられる「真に豊かな生活」をデザインし、社会に提言できる人材を育成

大妻女子大学

教育研究上の目的は、教育基本法に基づき、学校教育法の定めるところに従い、広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究して、応用的能力の展開と人格の完成に努め、高い知性と豊かな情操を有する女性の育成を目的とします。

大妻女子大学短期大学部

教育研究上の目的は、女子に対し広く一般教育を施すと共に専門的な学芸を教授し、高い教養と職業及び実生活に必要な能力を有する人材を育成することを目的とします。

大妻女子大学大学院

教育研究上の目的は、建学の精神に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とします。

教育理念

それぞれの教育目的を達成するため、本学では、教育理念として「関係的自立」を掲げています。これまでの概念の中での“自立”は、一般的に他者への依存からの解放という方向性をもった「個の自立」として一括することができます。しかし行き過ぎた「個」の強調は、個人の孤立を招き、また、福祉や治安、景観等に関わる共同体の機能を低下させていることが明らかになりつつあり、今後の日本社会においては「個の自立」を超えた個人のあり方が求められています。

これからの家政学を考える



家政学部長
青江 誠一郎

1. 家政学の目指す方向性

本学の家政学の目指す方向性をディプロマポリシーから紹介します。「家政学部は、家庭という社会における最小単位から、科学的で豊かな生活を実践するために必要な問題意識を育み、社会の複雑な構造や問題を把握し、解決へと導くことのできる、真に自立した社会人を育成することを目指しています」としています。そして、「各学科の専門領域(被服、食物、医療、児童、家庭生活等)に関する諸問題を理解し、幅広い知識を身につけ、これら諸問題について自ら考え、適切な対処法を判断できる」とあります。まさに、総合的学問と捉えていると言えるでしょう。これが他では学べない学部の魅力と言えます。

2. 家政学が関わる領域

家政学に関わる科学分野は、食物学、被服学、住居学、児童学、家庭経営学、家政教育学の6領域(1973年「家政学将来計画委員会報告」とされていましたが、それぞれの領域は、さらに、関連学問分野と関係して、家政学が関わる範囲は非常に広いものになります。経済学、経営学、社会学、法学、心理学、医学、教育学、体育学、農芸化学、工学、歴史学、人類学、民俗学などは全て家政学の隣接領域になります。総合的科学的という場合、こうした関連領域との学際的研究が必要であるという意味も含まれています。

3. これからの家政学研究

家政学の研究は、食物、被服、児童、家庭経営などの領域ごとに個別のテーマで研究が行われる場合と、たとえば高齢者問題、児童をめぐる環境、栄養と健康、住環境と住生活などに関する家政学的研究のように、家政学のほぼ全領域の研究者による共同研究によって達成できるテーマがあります。本学の場合は、前者の場合が多く、すでに各分野で活躍されている先生には学会の第一人者になっていただくと同時に後継者を育てていただきたいと思っています。一方で、後者の場合は、必然的に異なる専門領域の研究者が集まり、総合的研究方法をとることになりますが、実行することは難しいのが現状です。家政学の研究の魅力は総合的研究と捉えた場合、高齢者問題、児童をめぐる環境、栄養と健康などのテーマを学際横断的に学び、研究できる環境を整えたいと思っています。教員一人ひとりでは大きなプロジェクトを動かすことは難しいですが、家政学の各分野の研究者が協力していくつかの総合的な領域の研究ができればと思っています。



医療の場で活躍できる実践的授業

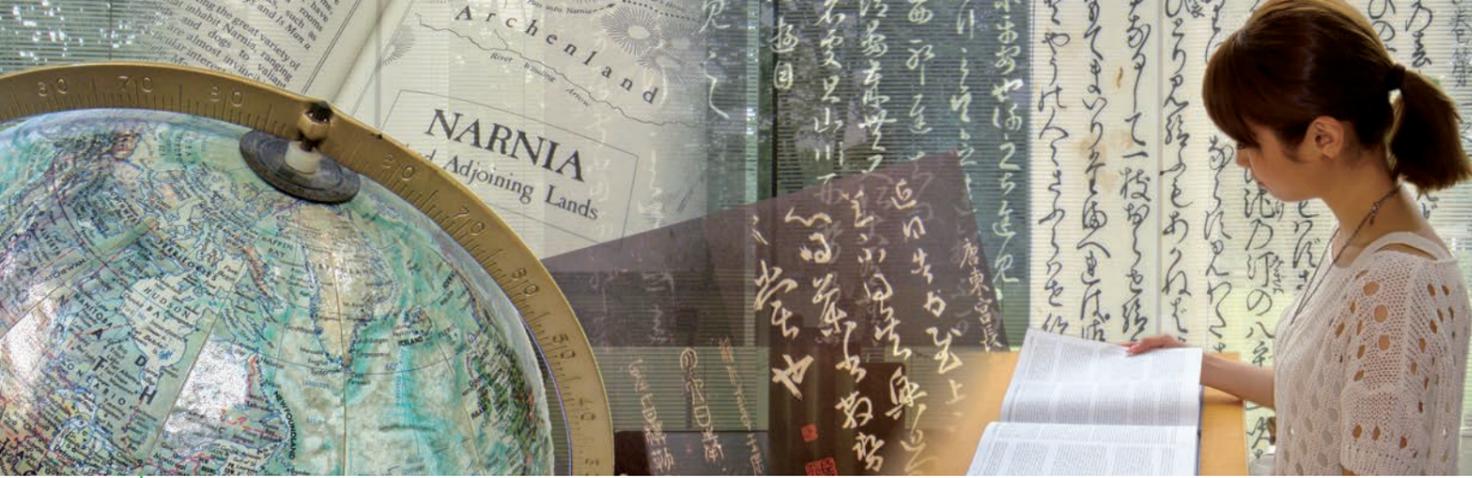
現代の代表的な疾病(悪性新生物や高血圧症、虚血性心疾患や心不全等)について、それぞれの栄養ケアプラン作成法と栄養指導法を実践を通じて学び、医療従事者の管理栄養士として、医療現場での対応力を向上させます。



子どもと共に

「いる・つくる・いきる」

「生活を、生活へ、生活で」。わが国の保育の基礎を築いた倉橋惣三のこの言葉は、今改めて重要な意味を持ちます。子どもの傍らに「生活者」となるため、1年次はまず自らの「感覚(価値観)」の問い直しから始めます。



文学部

- 日本文学科
- 英文学科
- コミュニケーション文化学科

「ことば」を介して人間を知り、社会を知り、自分を知る

広大な「ことば」の世界を自覚的に遊泳し散策しながら、「ことば」を介してその向こうにいる人間を知り、社会を知り、時代を知る、そして、ひるがえって自分自身を知る——これが文学部的人間形成のプログラムです。幅広い人文教養をもって時代の進展に柔軟に適応できる有為な人材の養成を志しています。

- 【日本文学科】**
「日本語」と「日本文学」を通して深い教養と豊かな情操を育成する——。日本文学科では、日本文学、日本語学、漢文学の各分野における専門教育を進めています。古代から近・現代文学まで、その時代に生きた人々の「ことば」と「文学」を通して、豊かな人間性と教養を身につけ、人間理解を深めます。
- 【英文学科】**
国際社会に貢献できる人間育成——。英語を4年間系統的に学ぶことにより、グローバル化が進む世界で必要とされる英語力を養成します。さらに、4つの専門領域、すなわち、英語圏の文学、英語学、英語教育学、英米文化の研究を通して、国際社会で力を発揮できる人間を育てます。
- 【コミュニケーション文化学科】**
他者とのコミュニケーションを通して広い視野と豊かな人間性を身につける——。コミュニケーション文化学科は、他者との関わりを通して異文化に対する理解を深めることに力を入れています。互いを尊重し交流する人間関係を楽しむ中で、国際社会で求められる言語力とコミュニケーション力を育みます。

社会情報学部

- 社会情報学科
(社会生活情報学専攻、環境情報学専攻、情報デザイン専攻)

情報社会の進化に、的確に柔軟に対応できる実践的人材の育成

社会情報学部は進化する情報社会・グローバル社会に生きるための知識と技能について総合的に専門的に学習することを目指しています。情報教育、英語教育を初年次から重視するとともに、各専攻ごとに多様な専門教育の充実も図っています。とりわけ少人数教育を重視し、1年次には基礎演習が配置され、3～4年次は学生と教師が共同で創る場「ゼミナール」が必修です。そして学生時代最後のまとめが卒業研究です。社会生活情報学専攻では「経済学・経営学」「社会学」「メディア学」の視点から社会について幅広く学ぶとともに、自分を的確に表現できる力を身につけることを目指しています。私たちは、新聞やテレビを通して情報を受け取るだけでなく、インターネットを使って情報を発信してもらいます。このような社会を生き抜くためには社会を深く知り、メディアを使いこなすことが求められています。それにこたえるのが社会生活情報学専攻です。環境情報学専攻では、自然環境と共生した生活環境の実現に向けて、身近な住まいやそこでの暮らし方を見直し、持続可能な社会づくりについて、「環境創成学」を学びます。地球環境問題の背景や解決について、自然科学・社会科学の両面から理解し、住まいやまちづくりに取り組むなど、問題解決の方法や実現方策を導くことを目指します。4年間の学びの集大成として、2級建築士受験資格のほか、理科教員免許資格(中高)などの取得を支援します。35億人が持つスマートフォン、ネットワーク、AI、IoT、ビッグデータ、ロボットなど新しい要素を重ね合わせ、新しいライフスタイルが生まれつつあります。情報デザイン専攻では、そのような社会を支える「情報」とは何か、「情報をデザインする」とはどういうことかをシステム系、情報基礎系、デザイン系科目を通して広く学びます。特に、情報システムに欠かせないプログラミングに関しては基礎から学び応用力、創造力を養います。



老舗への道

生物は代謝を行う。代謝とは、物質やエネルギーを体内に取り込み、新しい物質やエネルギーに変換する営みを言う。代謝ができなければ、生物は死滅する。<老舗>は生物に似ている。<老舗>は常に自己改革を行いながら、長期的に存続することをめざす。どんなに隆盛を極めた<老舗>でも、自己変革ができなければ衰退し、閉業を余儀なくされる。

<老舗>による自己変革の実践例は、枚挙にいとまがない。
(1) 明治19年創業の「九鬼産業」は、ごまの製造と販売を事業とする。この会社は、昨年、表参道に世界一濃厚な「胡麻アイス」を提供する専門店を出した。(2) 「にんべん」は、元禄年間創業の饅頭店である。この店は、最近、日本橋に「出汁スープ」の専門店を出した。(3) 京都に、300年以上の歴史を持つおでん屋がある。この店は、季節によって出汁の味を変え、毎月のように具材を変える。十年一日のごとく、ハンペンとガンモドキで高いを売っているわけではない。
食品業界では、時折、賞味期限や生産地の偽装表示などの問題が起こる。一方、<老舗>は自己管理を徹底し、創意工夫を怠らない。とりわけ、顧客の信用を裏切らないことは、<老舗>としての矜持である。ある<老舗>の主人は語る。「<老舗>は法律以上に自分の商品を厳しく監督し、品質を上げてきたからこそ、今がある。」

大妻女子大学文学部は、昨年、創立50周年を迎えた。300年の歴史を誇る饅頭店やおでん屋に比べれば、その歴史は及ぶべくもない。まして、今後の受験生の激減は、統計的に自明の理である。もはや、内輪の品質管理だけで顧客を確保できないのは言うまでもない。文学部のこれから10年の作業は、激動の時代の中で、<老舗>の本質を究明し、その精髓を内外に発信することであろう。

具体的には、次の5つの方策が考えられる。(1) 教員同士が自己を掘り下げ、本学部独自の特徴を明示する。(2) 刻々と変化する社会情勢に応じ、教員が日々自らを更新する実態を、様々な媒体を使って表明する。(3) 快適で健康的な職場環境を保つため、旧弊を改める勇気を教職員が共有する。(4) 卒業生・在学生が一体となり、一般社会での評価も顧慮し、学部の強みを鮮明にする。(5) 伝統と理念を反映した統一的<老舗>デザイン(パンフレット・ホームページ・ロゴマーク・タグラインなど)を構築する。これらを実践するためには、コーポレートデザイナーの助言を仰ぐ必要もあるかもしれない。



フランスでの日本祭への学生参加

日本文学科では、ブルターニュ地方レンヌの日本祭に学生10名が参加。茶道、着付、日本語、書道等でフランスの方々へ説明、実演、体験の講座を行いました。



レシテーション・コンテスト

英語の文章を暗記し、原文に込められた考えや思いを聴衆に伝えるように暗誦する。英文学科1年生対象のコンテストです。司会も学生が全て英語で行います。

プレゼンテーション大会

コミュニケーション文化学科では、毎年、学生主体のプレゼンテーション大会を開催しています。英語・中国語等、様々な言語で発表・質疑が行われます。



情報×社会を捉える学際的教育研究の展開

大学そして学部も社会の中にあります。今後の社会の動向を見据えることが重要です。スマートフォン、AI、SNSなどの情報化の進展は私たちの生活を変えていくでしょう。もの・人・カネそして情報のグローバル化は不可逆的に進むでしょう。さらに地球環境を配慮した、現在も将来も持続可能な社会の実現も求められています。こうした複合した社会の状況を俯瞰的に捉え、きちんと対応していくことが今重要です。

社会情報学部のこれからの教育は社会の状況を見据えたものとして構成されます。当然のことですが、専門分野の知識や技能を習得していくことは必要です。しかし専門分野の深い教育もたしに必要ですが、複数分野そして分野横断的知識や技能の獲得がますます重要になってきます。専門分野を深く学び、分野をつなげていく人材の育成こそ今学部で求められています。その意味で真の学際的教育、文理融合教育が必要です。こうした教育を通じて、専門をつなぐことができる、プロデューサー的人材を育成することが可能です。何が問題かをきちんと認識し、定式化し、問題解決を論理的に行っていく人材教育となります。情報をいかに収集し、活用し、発信していく能力が、自立した個人として、女性として、生き抜くために必要だからです。AIに代替されないためには、専門分野のテクニカルスキルだけでなく、他者とコミュニケーションができるヒューマンスキル、きちんと考え未来を構想できるコンセプチュアルスキルを主体的に学ぶことが重要になります。その意味で今後とも少人数教育である基礎演習、ゼミナールは重要であり続けます。

そして良き教育のためにはそれを支える研究がなければなりません。教員の優れた研究の裏付けがあってこそ充実した教育が行われるからです。教育・研究が両輪となって展開していかなければなりません。また大学が社会に開かれている以上、産業界のニーズがどこにあるのか、そして地域のニーズがどこにあるのかを見据えた教育研究が必要です。そのためには産業界や地域との教育現場でのコラボレーションを展開していくことになります。社会情報学部は社会の動向を見据え、社会に開かれた、教員と学生が主体的に創造する学部として存在していきます。

社会情報学部
Social Information Studies

社会情報学部
Social Information Studies

社会情報学部
Social Information Studies

社会情報学部
Social Information Studies

社会情報学部 ロゴの制定

やわらかく流れる形態は、変化する情報社会に柔軟に対応する学びの場であることを、またシャープさは、科学と私たちの知性と理性を表現しています。
中野希大 社会情報学部 准教授がデザイン。



情報処理学会学生奨励賞の受賞

情報デザイン専攻では人とコンピューターの接し方に関する研究を行っています。情報処理学会学生奨励賞を受賞した「拡張現実を用いた家電操作システム」はカメラで家電を見ることで操作できる情報システムの研究です。



人間関係学部

人間関係学科(社会学専攻、社会・臨床心理学専攻)

人間福祉学科

共生社会の実現に資する思いやりの心と実践力のある女性を育てる

人間関係学部は、来年度、創設20周年を迎えます。共生社会の実現を目指し、社会学、心理学、社会福祉学の3つの学問領域から、思いやりのある心と問題解決能力、実践力を備えた人材の育成を目指しています。人間関係学科(社会学専攻、社会・臨床心理学専攻)と人間福祉学科の2学科から構成されています。人間福祉学科は、2017年度入学生まで人間福祉学専攻と介護福祉学専攻の2専攻でしたが、2018年度入学生から1学科制となりました。

人間関係学科社会学専攻は、社会的想像力と社会調査のスキルを備え、幅広い視野と柔軟な発想を持った人材の育成を目指します。社会学は非常に幅広い学問ですが、学生が興味ある分野を見出しやすいように、「社会学コア科目」を中心に、「女性とライフコース」「職業とコミュニティ」「文化とメディア」の各領域からカリキュラムを編成しています。また、社会学専攻では、所定の科目を履修することによって卒業時に社会調査士を取得することができます。

人間関係学科社会・臨床心理学専攻は、心理学を通して人間関係と心の問題を解明する能力を身につけた人材の育成を目指します。人々の行動や心を科学的に分析する「社会心理学」、心に悩みを抱える人の支援を目指す「臨床心理学」、2つの視点から学べることが特徴です。2018年度からは公認心理師養成のカリキュラムにも対応し、大学院と連携して公認心理師、臨床心理士の養成にも取り組んでいます。

人間福祉学科は、多様な分野で活躍する福祉マインドを持った人材の育成を目指します。社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、3つの国家資格の取得を目指すとともに、より具体的な進路を想定した学びができるように、ソーシャルワーク、介護福祉、メンタルヘルス支援、子ども・子育て支援、医療ソーシャルワーク、ジョブコーチ(発達障害支援)、ライフビジネスという7つの履修モデルを立てています。



人間関係学部長
小川 浩

共生社会と 地域連携がテーマ

人間関係学部は、2018年4月から多摩キャンパスに位置する唯一の学部となりました。1学部体制になって新年度を迎えましたが、順調に新入生を迎えられており、多摩キャンパスの良さを改めて認識しているところです。昨年度、私たちは危機感をもって、学部及び多摩キャンパスの将来を考えました。「多摩キャンパスの活性化」に関わる中期計画検討部会では、教員と事務職員のチームで10回の意見交換を行い、基本的な方向性は、新たな学部・学科の設置に依ることなく、「共生社会」と「地域連携」を柱に教育の質を高めていくことで多摩キャンパスの活性化を図っていくこととしました。また、教育内容ははじめとして、キャンパスの照明、食堂の魅力アップ、地域連携の仕組み作りなど、具体的な課題について教職員が意見を出し合い、さらに全学生にアンケートを実施してニーズの拾い上げを行いました。これらの検討を机上の議論だけに終わらせないため、2018年度は課題を実行に移す「行動の年」としたいと思っています。

110周年記念事業は中期計画の方向性を踏まえ、「共生社会」と「地域連携」をテーマにさまざまなイベントを行います。講演・講座は大妻学院企画と人間関係学部の企画を合わせ9本が予定されています。メインは11月11日(日)「生涯健康で元気に生きる」をテーマに、前横浜DeNAベイスターズ監督の中畑清氏、横浜DeNAランニングクラブ総監督の瀬古利彦氏のトークショーで、多摩地域を元気に盛り上げたいと思います。その他、学園祭を中心に共生社会と地域連携をテーマにした教員の自主企画も多数予定されています。

少子高齢化が進み、さまざまな格差が広がる中、社会学、心理学、社会福祉学の3つの学問領域から、誰もが暮らしやすい社会の在り方を考え、その実現に資する人材を輩出することは本学部の普遍的なミッションです。そのミッションに向けて、多摩に集う学生、多摩地域と一緒に、肅々と研究・教育を行っていききたい。そうすれば、おのずと成果はついてくるであろうというのが、中期計画に込められた多摩キャンパス精神です。明確な教育研究の目的、身近な地域社会、コンパウトな組織、顔の見える関係性など、多摩キャンパスは多くの強みを持っています。それらの強みを生かして、これからも危機感をもって教育、研究、地域連携を行っていききたいと思います。



キャリア心理学 セミナー

この授業では、学生個々人がこれまで大学で学習したことの意味と今後の目標を確認し、大学生活後半の学習への動機を明確にすることで、一社会人として一歩前に出る自信と力を引き出すことを目標としています。



相談援助演習 (人間福祉学科)

社会福祉士の資格取得のために、社会福祉協議会、高齢者施設、障害者施設、児童施設など学生が深く学びたいと希望する機関や施設で180時間の実習を行います。さまざまな人とのふれあいが大きな成長をもたらします。

比較文化学部

比較文化学科

比較文化学部の全体に横溢する発見的快樂

入学後すぐに1年ゼミに所属します。高校にはなかった科目なので、どんな勉強をするのかの手ほどきを受けながら、レポートの作成の仕方、発表の仕方などの指導を受けます。全般に外国語の勉強が基本です。英語・フランス語・スペイン語・中国語・ドイツ語・韓国語のほかにはロシア語やラテン語も勉強できます。外国語の勉強は文化学の基本です。

組織全体を簡単にわかってもらうために、地域ごとにコース分けがなされています。ヨーロッパ・コース、アジア・コース、アメリカ・コースの3つです。地域テーマばかりではなく、思想や芸術も扱われますが、基本的には日本をかえりみるための作業です。入学後、学部のことが了解できるようになってからコースを自分の考えで選択することになります。3年から所属するゼミについては、先生や先輩に聞きながら、自分で進路を選択していきます。ここでいよいよ自分で見定めた専門テーマが始まります。4年ゼミでは全員が個別に指導を受け卒業論文2万字に取り組みます。このように教育組織としては、学生諸君が自分で判断してコース決定していけるように、教員は節目節目で学生の進路に助言をするべく待機します。

教員の守備範囲は広いですが、授業の選択の幅に学生の興味の幅も限定されるので、ときどきコース外の同僚を呼んで来て、授業に別の光を当てる交流授業を試みます。外部講師を招聘することによって外からの刺激も用意します。たとえば前年度は、スウェーデンのここが絶対面白いというお話や、アメリカ在住カメラマンの方にも生き方のお話をいただきました。基本的に比較文化学部は外との接触を大事と考えていますし、できるだけ学生諸君には留学してもらって援助をしますが、世界情勢がテロがらみなので警戒もしています。



比較文化学部長
原 研二

比較は深い。 マニヤックに知の森へ！

ショーケース用に食品サンプルを作る会社の話。たとえば食パンのサンプル。焼きたてに見えるばかりが、びっくりすることに、ふわふわの手ざわりまで再現するのだという。もともと触ったりちぎったりするためのサンプルではないのだから、過剰な遊び心、あるいは職人魂のなせるわざなのだろう。

ところで、ある医療機関では、医学生にカテーテル挿入の練習をさせるための人体フィギュアが必要だった。これは医学実習なのだから身体模型にも生な弾力も備わっていてほしい。そうすると偶然のような必然のような出会いがあって、先ほどのパンの触感を具えた素材が医学と出会う、人体フィギュアが生み出される。今ではめでたく医学生が触診実習に使うフィギュアとなって重宝されている由。

私たちの学部は、文化研究という大きな風呂敷を広げているので、何かに直結して役に立つ見込みで出発するのではない。むしろ役に立つ、立たないを超越して、自分の工夫を貫徹することなのだが、そのほうが突破力に恵まれるのかもしれない。マニヤックな個人的工夫が、思いがけない組み合わせを生んでいったように。

もうひとつ、中東のみならず、欧米から安寧が失われてしまったこともあり、役に立つという基準で世界を理解しても不安をぬぐい去ることはできない。大きな話になるとすぐに「八紘一宇」だけの教育勅語だの、頭でっかちな言葉が飛び交うわが国では、この世界の片隅で一個の職人になりきっているほうが美しい。とはいえ私たちの学部は外国語教育と教養教育を提供するので、外に出ていくことを本来推奨するのだが、これは今や大きな危機を伴ってしまった。片隅に居ながら、そうした大きな世界への目配りもまた強制される。にしても大言壮語に強制されて「役に立つ」人間になるよりは、目の前の人に喜ばれるよう工夫する方がよろしいか。グローバルズムなどとは関係なく。

さて比較文化学部の目の前の展望は：イタリア語、北欧語がふえるといいな。さらには国際関係・文化学としてのディープな外国語学習の他に、一転、さまざまな言語を観光用速習講座として提供してはどうか。教員もさらに研鑽を積んで、全学部の教養講座を比較文化学部として担ってどうか。名前はどうかあれ、そのうち比較文化が全学を覆ったり、あるいは消滅して全学の下支えになったり・・・比較はあらゆる方面で酷使される・・・。



講演中の 河野さんと 妻のルースさん

比較文化学部では学外から講師を招いて特別講演会を実施しました。2017年度はアメリカ先住民保留地で活躍する写真家河野謙児さんと先住民民族出身の妻ルースさんに保留地の現状についてお話をいただきました。

外からの風が 吹き込む 怒涛の一年



比較文化学部の110周年記念事業をご案内:5月にはEU大使館、続いてアイルランド大使館、6月に日独協会理事、7月、津田塾学長を招請してシンポジウム。9月にはギリシア大使による講演一一日本にいながら外をご案内。



短期大学部

家政科(家政専攻、生活総合ビジネス専攻、食物栄養専攻)	
国文科	英文科

大妻精神を学び一足先に女性の夢実現を目指す

本学短期大学部は、家政科(家政専攻、生活総合ビジネス専攻、食物栄養専攻)、国文科、英文科の3学科から構成されています。2年間の学びを通して、実社会に対応できる知識・技能、高い教養と豊かな人間性を養い、幅広い学びへの意欲に応えるとともに、奥行きの深い学びと就職・進学に直結した、時代に対応できる資格取得能力を短期間で育成し、自立した社会人を目指す環境を揃えています。家政専攻は、家政学の基本である衣・食・住・保育・健康を中心に、人間生活全般に関わる実践的知識・教養・技術力を身につけることで、社会の発展に貢献できる人材を育成します。生活総合ビジネス専攻は、家政学の基本を学ぶことによって教養豊かな生活人として成長するとともに、現代社会の仕組みを理解し、身につけた情報処理能力・ビジネススキルによって企業人として即戦力となる人材を育成します。食物栄養専攻は、食と健康に関わる知識と技術を総合的に身につけ、健康づくりに貢献できる専門的知識を持った栄養士を養成します。国文科は、現代を生きる上で必要な情報を自分の力で獲得し、確かな日本語能力を身につけるとともに、人間性豊かな社会人として国際化する現代社会で活躍できる人材を育成します。英文科は、レクチャーやセミナーを通して世界が直面しているさまざまな問題に関心を持ち、幅広い知識を身につけ、これからの国際社会に貢献できる女性を育成します。短大の特徴の一つに各学科専攻の専門科目の一部を他学科専攻の学生が選択できる自由科目(食物栄養専攻を除く)があり、他学科専攻の魅力的な専門科目の履修を認め、幅広い専門教育を学べる場を提供しています。このように本学短大は、各学科専攻ごとに、さまざまな教養・経験・資格・マナーを身につける環境を整え、多様化する社会の中で、夢を持ち生き生きと活躍できる女性の夢実現を支援します。

大学院

人間文化研究科(人間生活科学専攻、言語文化専攻、現代社会研究専攻、臨床心理学専攻)

開かれた教育・研究を目指す領域横断型研究科

本大学院人間文化研究科は、生活科学・人文学・社会学・心理学などの個々の専門性を重視しつつも、従来の研究領域の壁を越えることで研究内容の幅を広げ、開かれた教育・研究を目指す領域横断型研究科です。人間文化研究科の下に4専攻が設置され、専任だけでも100名を超える教員が、組織的な指導体制を整えています。

- 本学大学院の特色として、次の事柄が挙げられます。
1. 少人数制の授業による、学生の興味関心に合わせた指導体制
 2. 他専攻科目の履修も可能な専門分野を超えた研究体制
 3. 働きながら学ぶ社会人のための入試制度及び集中講義などの支援体制

各専攻の特徴は、次の通りです。

- 人間生活科学専攻(修士及び博士課程): 人間生活を、被服、食物、保育、家庭生活などの枠を超え、生活を総合的科学的として捉え、生活の知を探求することができる人材の育成を目指しています。
- 言語文化専攻(修士及び博士課程): 本専攻は、古典文学・近代現代文学・日本語学の3分野を主に研究する「日本文学専攻」、英語文学・英語教育・英語学の3分野で構成される「英語文学・英語教育専攻」、コミュニケーション文化・国際問題の2分野を主に研究する「国際文化専攻」の3専攻からなっています。
- 現代社会研究専攻(修士課程): 本専攻は、情報コミュニケーションに関する諸問題の理論的・実証的な分析力を深める「情報コミュニケーション専攻」、現代における生と死・ジェンダーについて臨床社会的な探究を試みる「臨床社会学専攻」の2専攻から構成されています。
- 臨床心理学専攻(修士課程): (公財)日本臨床心理士資格認定協会第一種指定大学院として、修生の95%が臨床心理士の資格を取得し、かつ、就職率も例年ほぼ100%を保っています。また、2018年度からは公認心理師の受験資格も取得でき、臨床的な態度と科学的思考力を備えた臨床心理家を養成しています。



人間力を培い『輝く素敵な女性に!』

本学短期大学部は、1950年4月に開設され2018年3月で68年になりました。家政科第一部・第二部からスタートし、1968年に家政科食物栄養専攻、国文科、英文科が新設されました。1986~1999年の入学定員は、家政専攻800人、食物栄養専攻200人、第二部200人、国文科300人、英文科300人で1,800人、さらに1988年多摩校に開設された3学科(生活科、日本文学科、実務英語科)の1991~1999年の入学定員は495人で、千代田・多摩校合わせると短大1学年で2,295人、総定員は4,590人もの学生数となり短大が大妻学院の財源に多大な貢献をしました。2011年家政科に生活総合ビジネス専攻を増設しましたが、2015年度入学定員は3学科で350人まで漸減しました。全国的にも短大の学生数は1993年の530,294人がピークで現在は25%近くまで激減し、18歳人口の減少、学生のニーズの変化等により入学を確保することが困難な時代です。しかし、短大は修業年限が短く、学費負担が軽いという特性があり、教養と専門のバランスがとれた教育、きめ細やかな教育、本学の建学の精神に基づいた特色ある教育を展開することで幅広い人間形成ができ、さらに実務能力の習得、資格取得を目指す生涯学習機関としても社会のニーズに応える場となり続けると考えます。本学の短大は、輝かしい伝統を自覚しつつ、激動する社会の変化に対応できる人材育成のためにキャリア形成を視野に入れた教育を行い、総合的な人間教育、専門職業人の教育を目標に掲げ、その実現を目指した教育課程を編成しています。2017年度より学生が今後の学習、就職活動、将来の進路を考えるための基礎資料となるようにPROGテストを実施し、社会が求める問題解決能力を、情報収集力・情報分析力・課題発見力・構想力という要素で測定・評価して学生が有益に活用できるようにしています。さらに2019年度より家政専攻の専門科目である「生活のマナー」を3学科の学生が選択できるようにします。マナーが身につけていないと相手に不快な思いをさせ不要な誤解でコミュニケーションがとれなくなり、自分の意見すら伝える事が困難になるので自己実現のためにもマナー教育は必要なことです。短大の2年間で人間力を培い、社会に出た時にそれが個性として輝き社会貢献できる力となるように支援します。

短期大学部長
下坂 智恵



一人ひとりの想いをサポート!

学生が教員にさまざまなことを気軽に質問・相談できる時間帯「オフィスアワー」があります。さらに、学生が希望する進路に進めるよう効率的、効果的に支援するために「短期大学部進路支援講座」を実施しています。



語学力を磨き国際センスを身につける

オックスフォード大学ハートフォードカレッジなど数か国での短期・長期海外研修、交換留学プログラムに参加できます。異文化に触れ、文学・ビジネス、プレゼンテーション、TOEIC®対策等を学びます。



研究科長
堀江 正一

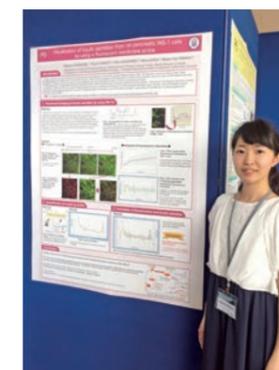
より魅力のある大学院教育を目指して

平成以降の大学院の動向を見ると、学部を持たない大学院大学や研究指導・論文審査等を必須としない専門職大学院等の新しいタイプの大学院が設置されるなどの大学院改革が推進されてきた。また、大学院重点化施策も積極的に推し進められ、大学院の定員は大幅に増員され、量的充実が図られた。大学院に在籍する学生数を見てみると1990年約9万人であったものが、2015年には約25万人となっている。大学院の規模で見ると、大学院に在籍者が数千人いる大規模大学院から、数十人規模の大学院までまちまちである。一方、少子化が深刻化しており、1992年に約205万人を数えた18歳人口が2017年約120万人と大きく減少し、10年後の2027年には約104万人と推定されている。このように変容する状況の中で、多くの大学院では、定員を充足し、国内外で必要とされる人材を養成するためにさまざまな取り組みを進めている。大妻女子大学大学院も、より魅力のある大学院教育をめざして次のような改革に取り組んでいる。2010年に学部の延長線上に設置されていた4研究科(家政学研究科、文学研究科、社会情報研究科、人間関係学研究科)を、領域横断型大学院として一つに統合して「人間文化研究科」とした。人間文化研究科の下に従来の4研究科に因り4専攻(人間生活科学専攻、言語文化専攻、現代社会研究専攻、臨床心理学専攻)が設置され、従来の研究領域の壁を越えることで研究内容の幅を広げ、開かれた教育・研究を目指した改革が進められている。働きながら学ぶ社会人のための入試制度や集中講義・夜間開講などの支援体制により、社会人の入学生が増えてきており、分野横断型や学際的な研究も一定の評価を得ている。しかし、一部の専攻においては、学内からの進学率が低いことが課題となっている。課題解決に向けて、大学院進学にあたって大学院に在籍者が重視した項目、「指導を受けたい教員がいること」、「研究したいことがあること」、「専門分野の資格がとれること」等の学生のニーズに応える不断の取り組みが必須である。また、前記したように社会人にとって学びやすい面が評価されており、創立110年という歴史のある女子教育から培ってきた教育・研究力を生かし、学び働き続ける女性を積極的にサポートする、より魅力のある大学院教育も目指したい。



全学的な修士論文発表会

修士課程2年に在籍する全員が参加して、毎年5月下旬に「修士論文研究計画発表会」を、翌年の2月下旬に「修士論文発表会」を開催しています。今年度は千代田校と多摩校を遠隔授業システムでつないだ発表会を試みました。



研究成果の積極的な情報発信

研究成果について、積極的に学会発表及び論文投稿することを奨励しています。2016年度の論文発表件数は7件、学会発表件数は15件で、この中には海外での学会発表も含まれています。



大妻中学校・高等学校



大妻中学校・
高等学校校長
成島 由美

伝統の力で未来を拓く

大妻学院創立者大妻コタカは「良き家庭人、良き職業人たれ」と唱え、社会に貢献する自立した女性の育成を目指していました。100年以上前の思いが、時代の変化や環境に応じて常に変わり続け、進化してきたのです。これからの中高生は、人生100年時代を生きる世代です。人生の礎となる、18歳までの大切な6年間をともに学び、悩み、考え、失敗を恐れずチャレンジする、それが大妻中高です。中高生は可能性の塊、例えるなら「ダイヤモンドの原石」です。異なる価値観とぶつかり合い、磨かれて、輝かしい未来に向けて通用する自分の軸を探し、しなやかな強さを身につけてほしいと思います。10代で、たくさんチャレンジし、たくさん恥をかき、恥を知ることで、しなやかな強さ、向上心を得てほしい。そうした強さや向上心は、大妻生の未来にも、舞台がグローバル化した世界になっても通用する原動力となることでしょう。自立した女性を育てる、大妻110年の教育力にご期待ください。



大妻多摩中学校・高等学校



大妻多摩中学校・
高等学校校長
谷林 真理子

大妻多摩中学校・高等学校のこれからの10年

大妻多摩中学校・高等学校は、社会に貢献する自立した女性の育成という大妻コタカの建学の精神を基に、難関大学合格のための進学校としてさらなる進化をします。本校ではこれからの10年を見据えて、2017年度から始まった人間関係スキル・キャリア教育プロジェクトと英語・国際教育プロジェクトの充実をはかり、生徒たちには中高生の時から国際社会で活躍できるだけの自覚と自信をつけさせたいと思います。文部科学省が提示した教育改革では「正解」のない課題に取り組み、「納得解」を得る力を身につける学習活動が重視されていますが、探究プログラムの実践により生徒の知的好奇心を喚起するとともに、電子黒板とタブレットを用いてアクティブ・ラーニングを円滑に行い、大学入試の調査書作成のためのポートフォリオの導入を開始します。さらに各教科の授業、体育祭・文化祭・合唱祭という三大行事などでプレゼンテーションの機会を増やし「主体的・対話的で深い学び」に向けた取り組みを全学で展開します。生徒たちには将来の夢を具体的に描き、それを実現するための学力をしっかりとつけて、大きな変化の起こる未来にあってもしっかりと対応できる逞しさを培ってほしいと思います。

教育目標

大妻教育 Vision50

卒業後、社会で50年輝き続ける女性の育成を目指します。国内外で、良き家庭人として、職業人として活躍する人材を目指し、高い学力、コミュニケーション能力、女性らしいリーダーシップを身につけ、豊かな人間性、社会性を育みます。高校卒業までの6年間にキャリア教育である「みらい科」を実施、校長訓話50講座や、千代田の立地を生かした大学や企業研究機関との連携、幅広い教養を外部から学ぶ「知」の集積を実現します。

教育目標

高い知性を持ち、 グローバル社会に貢献する 女性の育成

グローバル化とAIによる技術革新が進む、予測が難しい時代を逞しく生き抜くための力を持ち、社会と世界に貢献できる知性と品位を備えた女性の育成を目指しています。大妻伝統の女子教育に加え、中高一貫校ならではの「無理のない先取り教育」や「時代に対応する先進的な教育改革」によって、新大学入試と未来社会に必要な学力と「思考力・判断力・表現力」を習得できるよう指導します。

学びの特徴



21世紀社会を生き抜く 教育の推進

未来予測が困難で不確実な21世紀社会では、問題に対し、情報を組み合わせて納得解を導く力が求められます。21世紀型教養のもと、創造性を育て、情報の処理能力、編集力等のスキルを磨いてまいります。



しっかりとした 基礎学力の形成

思考力や表現力の土台となるしっかりとした基礎学力の育成に力を入れています。授業の受け方から試験の見直し、学習計画の立て方まで丁寧に指導するとともに、不十分な場合のフォローアップ体制も整えています。



アクティブラーニングによる 深い学びの実現

グループ学習、ディスカッション等を取り入れた授業、電子黒板やタブレットを活用した発表など、生徒が能動的・主体的に取り組む学びを実現します。生徒同士の議論や発表活動を、校内の全ての活動に活かしていきます。



グローバル教育の 推進

国際社会において、広い視野を持ち、異なる文化背景を持つ人々とも積極的に交流し、共に働いていける国際人の育成を目指します。語学力を鍛えるとともに、さまざまな体験ができるプログラムを多数用意しています。

学びの特徴



人間関係スキル・キャリア 教育プロジェクト

良き社会人を育てる教育活動として、キャリア教育では「人を創る」という目標のために、社会性・コミュニケーション能力を養い、自分自身を理解し、職業及び社会・文化を理解するというプログラムを展開します。



探究プログラムの充実

新大学入試や未来の国際社会に向けて、主体的な学びを深める「探究基礎」の授業を新設。「探究」活動を充実させ「思考力・判断力・表現力」の養成を進め、国立大学入試への対応や論理的思考力の充実をはかります。



英語・国際教育プロジェクト

国際社会で活躍する「骨太の女性」を育てるために、中学1・2年で英語コミュニケーション力と国際的視野を育て、中学3・高校1年で外部のプログラムにも挑戦、高校2・3年で海外大学も視野に進路の幅を広げます。



ICT教育の促進

生徒各自が自分のタブレットを持ち、ヒューマノイドロボット・Pepper君の導入を通して、これからのAI時代に適応する情報リテラシーを高め、ICT教育やプログラミング教育の促進を目指します。



大妻中野中学校・高等学校



大妻中野中学校・
高等学校校長
野崎 裕二

大妻中野“国際”中学校・高等学校フロンティアスピリット

人類は協働することにより進化してきました。現代社会においてもそれは変わらないでしょう。大妻コタカは「他者との関係のなかで相互の力を生かし合い、自己実現できる人間としての自立、互いの成長、社会への貢献」を教育理念として掲げてきました。文化やテクノロジーが、予想を超えた指数関数的な速さで進化を続けている現在、これまでになかった多様な課題も出現しています。変化に伴うさまざまな情報を瞬時に日常的に得ることが可能な今、自分の主体的な言動を決める判断材料とできるよう、それらの情報を活用し、「よりよい生き方を選択できる自分」になることを目指す時代です。周りの人々と意見を交わし合い、協働できる力が求められています。本校では、よりよい生き方を選択できる自分になるために、6年間のカリキュラムを通じて、学び方を学び、多文化・多言語に触れ、視野を広げながら前向きな思考態度を身につけて、身近な課題から地球規模の課題にまで思いを馳せ「人の幸福と物事のあり方」について考えを深めるような学園生活を送ってほしいと願います。教職員共々学び続け、協働して、持続可能な社会づくりに直接的・間接的に参画できる人間力を育成します。



大妻嵐山中学校・高等学校



大妻嵐山中学校・
高等学校校長
真下 峯子

世界につながる科学的素養と感性で女性の活躍の場を拓ける

大妻嵐山中学校・高等学校は、かつて鎌倉時代～昭和を新しいビジョンで牽引した人々が足跡を残した嵐山の森で、Global Eco-Science Schoolとして、生物多様性、地球環境保全に科学的素養・理解を持って貢献できる女性の育成を目指しています。日本のこの地にあっても、世界中の異なる文化や考え方を持つ人々の生活に想いを馳せ、それらの人々と協働して平和な社会を作り上げていくことができる生徒を育てる取り組みを、さまざまな団体や組織のご支援をいただきながら重ねてきました。新しい大妻学院の次の100年に向けて「知り、考え、行動する」ことを生徒育成の原点とし、一人ひとりの生徒が、ひるまずどんな困難にも挑戦しようとする意欲と力を、学祖大妻コタカのエネルギー溢る行動力をロールモデルに教育活動を充実させて参ります。さらに、多様な能力を持った生徒一人ひとりの力をインキュベートしながらプログラミングやプレゼンテーション、コミュニケーションなどの新しい時代に必須となる力へ進化させていきます。自分の力を信じて、自ら人生を切り拓く生徒を育てる、大妻嵐山の新しい教育システムにご期待ください。

教育目標

持続可能な社会づくりに
国際的視野で
貢献できる人材育成

自国や自地域とともに、他国や他地域の歴史や文化を学び、互いの立場を尊重することは、国を越えて、地域を越えて、物事をより公正に判断する上で非常に重要な視点です。建学の精神「学芸を修めて人類のために」を具現化するため、世界のさまざまな課題を地球市民として捉え、協働することで解決していこうという姿勢でグローバル教育のさらなる推進を実施していきます。

学びの特徴



Active Arts and Languages

2015年から文部科学省が認定しているSGHアソシエイト校として、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成プログラム、21世紀型リベラルアーツと多言語教育を実施している学校です。



多様な海外研修と留学、海外大進学支援／帰国生教育

約1割の海外帰国生とともに、21世紀型リベラルアーツと多言語教育の環境下、生涯に亘る前向きな思考態度を身につけるため、共同探求、現地調査、ディベート、プレゼン、プログラミング、反転学習等の授業を実施します。



中高一貫基本シラバス／発達段階に応じた成長支援

よりよい生き方を選択することができるための生徒主体の体験プログラムを配置。ピアサポート、弁護士支援による人間関係考察、小笠原流礼法、中野地域職場体験、新潟環境留学、広島平和交流学習、近畿歴史文化研究など。



内外大学や企業と連携し、進路実現への関心・意欲喚起

世界的企業・大学の協力により多種多様な講演やフィールドワークを体験。実社会とつながる学習環境が進路への関心・意欲を喚起し、外部企画や外部検定に積極的に参加できるサポート体制が、主体的な進路選択を支援します。

教育目標

Ranzan Strives to
Raise its Global
Eco-Science School

科学的センス、英語力、多様性を受け入れる力、豊かな感性と、思いやりの心を持ち、率先垂範して行動する女性の育成を目指します。世界が目指す、SDGsを成果評価の指標として、大学、研究機関、企業の皆様のご支援をいただきながら教育活動を展開します。これまで力を入れてきた、医療看護系への貢献意欲の高い生徒の育成とともに、今後、女性ならではの矚きと感性を兼ね備えたIT人材の育成も視野に入れて、「持続可能な世界」の実現に貢献できるグローバルな知性、行動力の育成を実現します。

学びの特徴



世界につながる表現力

コミュニケーション、プレゼンテーションが自由自在にできる英語力をはじめ、日本文化を理解し発信する力、興味関心を世界に広げ、諸外国の文化や世界全体が抱える問題を学ぶなど、一人ひとりの表現力を育てます。



世界につながる心と感性

他者を理解し尊重する姿勢、自らの行動を律することができる強さ、豊かな心を育てることはもちろん、世界で起きていることを身近に引き寄せて考え行動する力など、一人ひとりの心と感性を育てます。



世界につながる科学的素養

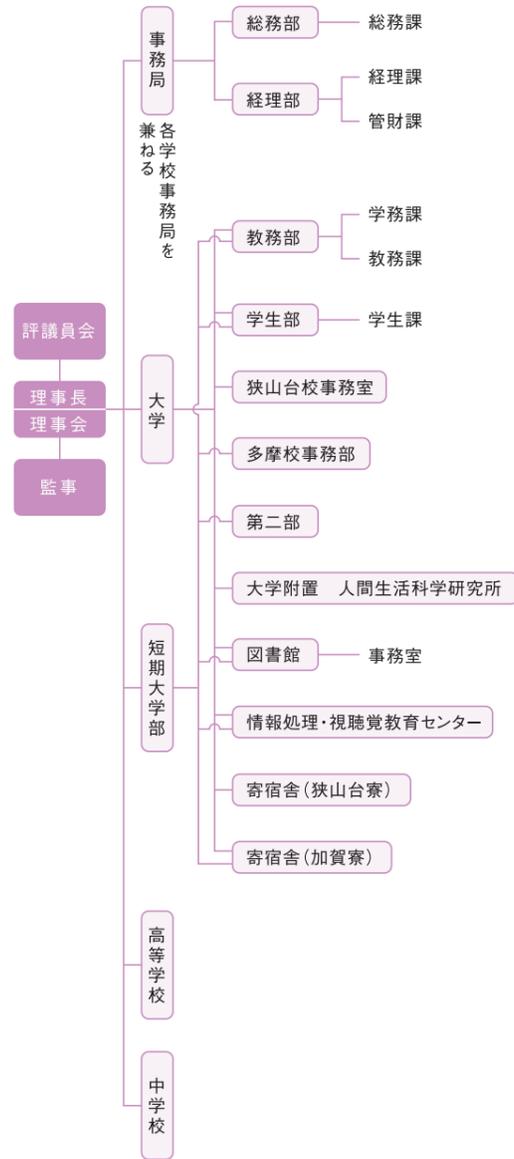
グローバル化する現在、科学的な基礎知識・理解力を持つことはもちろんですが、データや情報を分析して、世界の中で共有できる納得解を導き出す力が必要です。生徒一人ひとりの科学的素養を育てます。



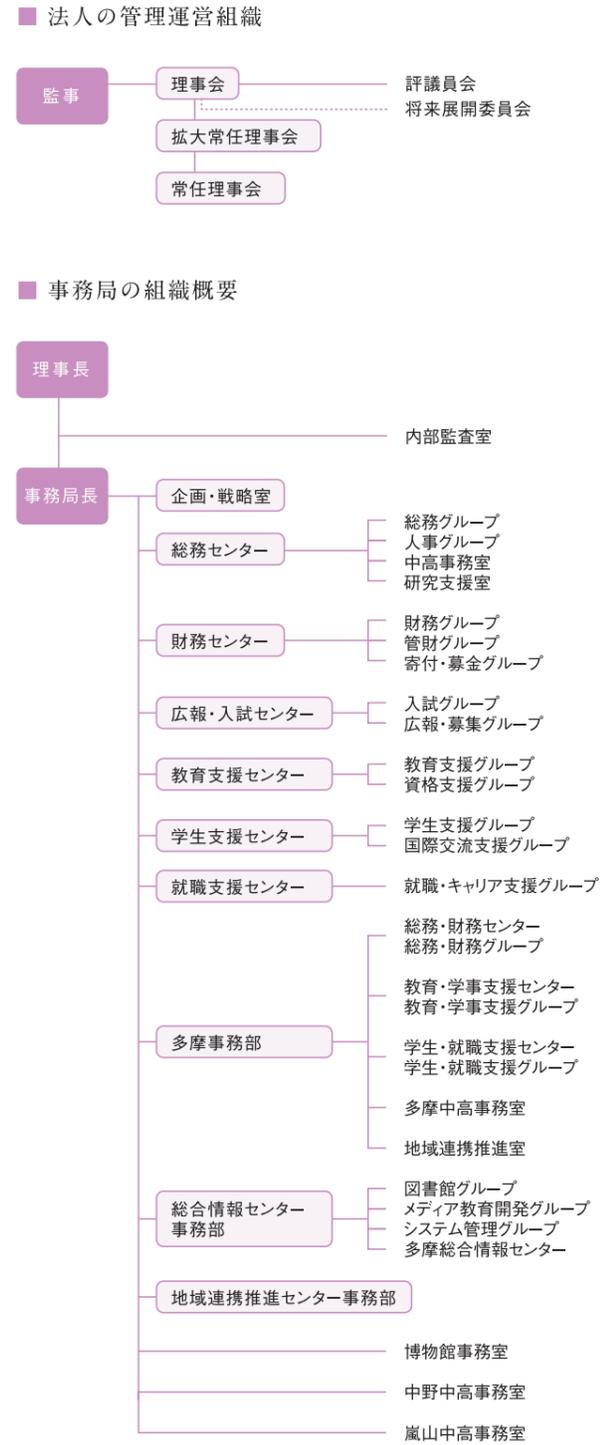
世界につながる進学力

2020年の大学入試改革は、社会に出てから世界につながる進学力が必要になるという時代の要請です。知識を定着させる力に加えて、自ら問題を発見して、自ら解決していく力など進学力を育てます。

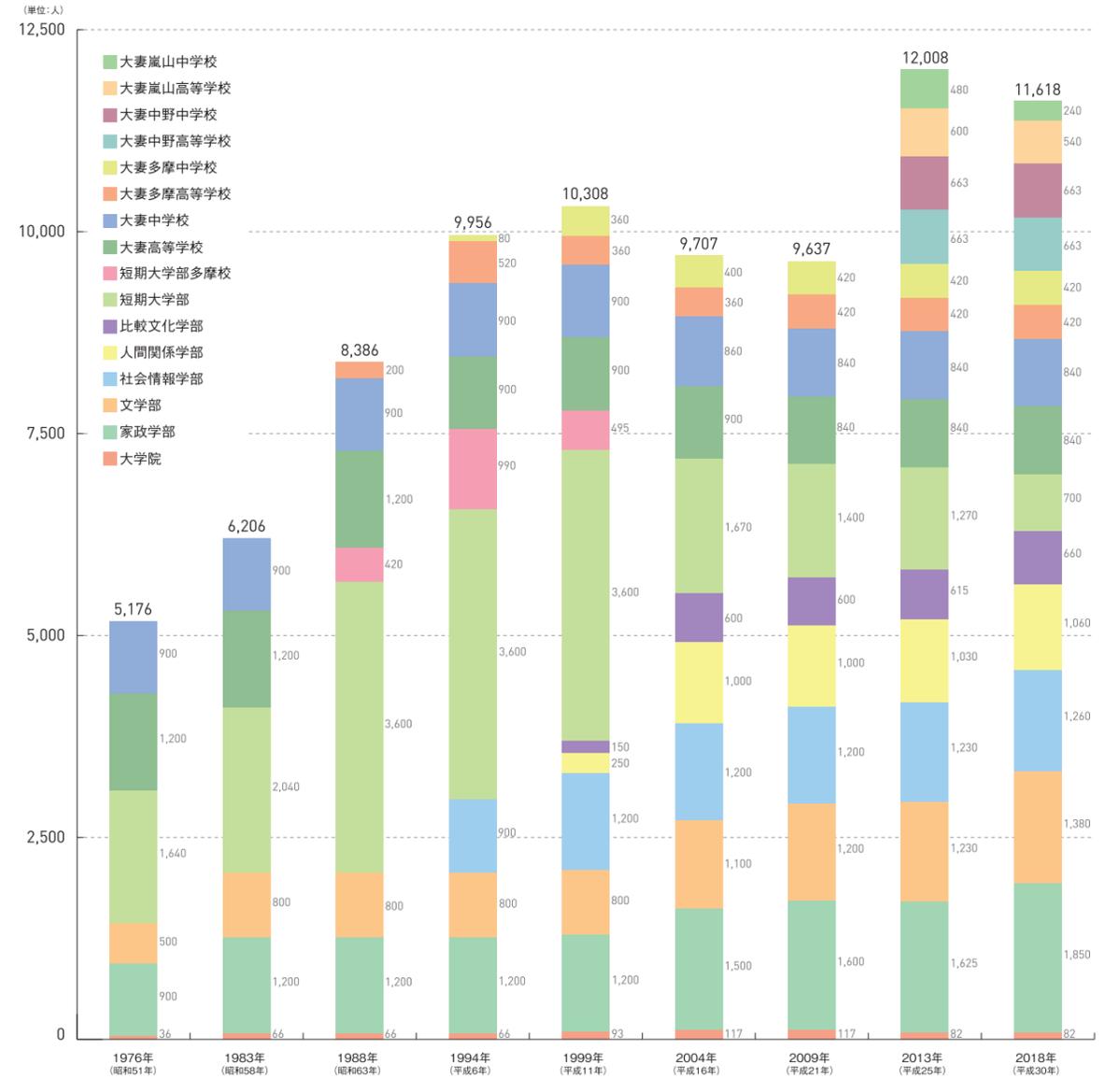
法人組織図 1988年(昭和63年)



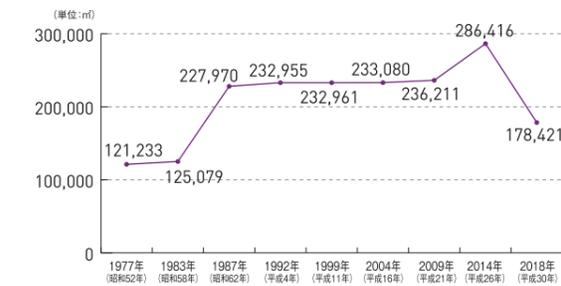
法人組織図 2018年(平成30年)



収容定員推移



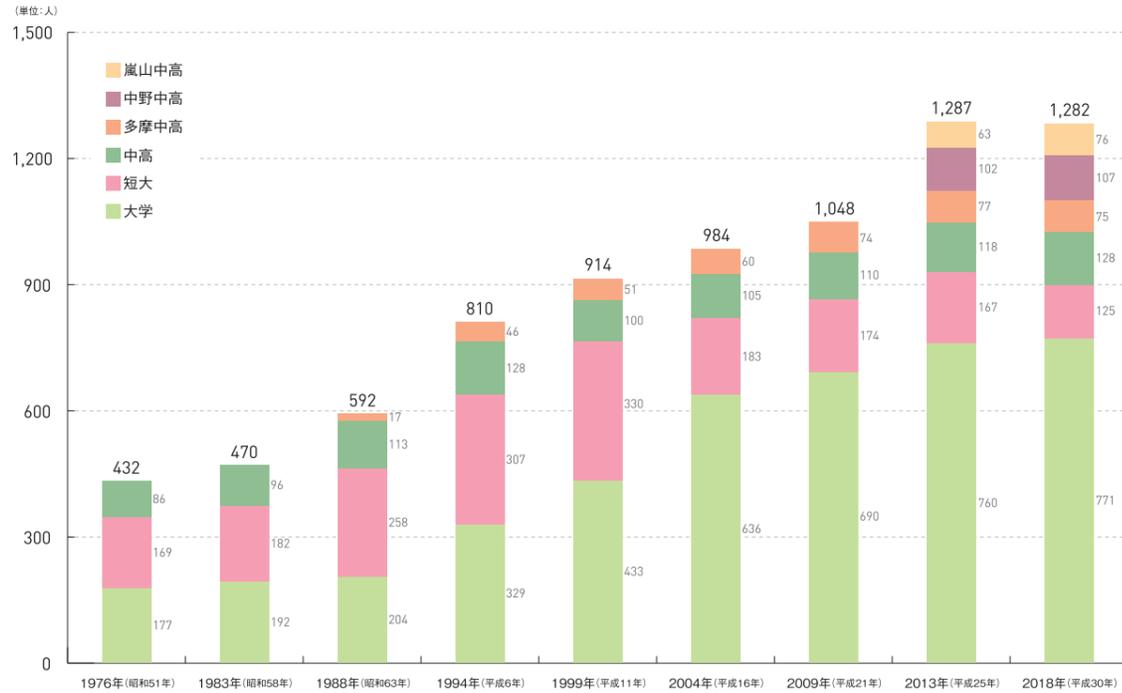
土地面積推移



建物面積推移



教員数推移



職員数推移



2018年(平成30年)取得できる資格

- 教員免許
 - ▶専修免許状[幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭(家庭・国語・英語)・高等学校教諭(家庭・国語・英語・情報)・栄養教諭]
 - ▶一種免許状[幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭(家庭・国語・英語・理科)・高等学校教諭(家庭・国語・英語・理科・情報)・栄養教諭]
 - ▶二種免許状[栄養教諭]
- 国家資格
 - 学校図書館司書教諭/図書館司書/博物館学芸員/栄養士/保育士
 - 国家資格(任用資格)
 - 食品衛生管理者/食品衛生監視員/児童の遊びを指導する者/児童指導員/社会福祉主事/老人福祉指導主事/知的障害者福祉司/身体障害者福祉司/精神保健福祉相談員
- 民間資格
 - 家庭教育相談員基礎能力(本学独自の認定)/1級衣料管理士(テキスタイルアドバイザー)/秘書士/上級秘書士/上級ビジネス実務士/レクリエーション・インストラクター/福祉レクリエーション・ワーカー/専門社会調査士/社会調査士/認定心理士/繊維製品品質管理士(TES)
- 受験資格
 - ▶国家資格[管理栄養士/二級建築士/木造建築士/公認心理師/社会福祉士/介護福祉士/精神保健福祉士]
 - ▶民間資格[臨床心理士/フードスペシャリスト/ピオトープ管理士[2級](ピオトープ計画管理士/ピオトープ施工管理士)/産業カウンセラー/NR・サプリメントアドバイザー/健康運動実践指導者]

2018年(平成30年)連携・教育・研究交流に関する協定等

2018年(平成30年)7月20日現在

- 千代田区と大規模災害時における協力体制に関する基本協定(2011.12.13)
- 千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定(2003.01.31)
- 大妻女子大学図書館と千代田区立図書館との相互協力に関する覚書(2004.03.18)
- 千代田区と番町学園通りにおける維持管理等に関する協定(2008.10.02)
- 千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム設立(2018.04.01)
- 多摩市と大妻女子大学の連携に関する基本協定(2003.05.30)
- 中野区との避難所施設利用に関する協定書(2014.01.20)
- 千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定に基づく千代田区教育委員会の実施する小学校科学教育センターについての連携に関する覚書(2016.03.30)
- 大妻女子大学と順天堂大学との大学間交流に関する包括協定(2016.07.07)
- 大妻女子大学と二松学舎大学との相互交流協定(2005.11.30)
- 大妻女子大学と中央大学との教育・研究交流協定(2002.04.01)
- 京都女子大学と大妻女子大学との包括交流協定書(2018.04.10)
- 大妻女子大学と東京歯科大学との連携交流に関する協定書(2018.06.22)
- 大妻女子大学と穴水町との包括連携協定書(2018.07.19)
- 大学院社会学分野の単位互換制度に関する協定書(2006.03.07)
- 大妻女子大学と大妻女子大学短期大学部との単位互換に関する協定書(2006.07.13)
- 大妻女子大学短期大学部と大妻女子大学の単位互換に関する協定書(2006.07.13)
- 大妻女子大学と大妻中野高等学校との教育・研究交流基本協定書(2011.07.14)
- 東京都教職員研修センターと大妻女子大学との連携による研修実施に関する協定(2016.03.30)
- 防災・減災及び災害時のボランティア活動に関する5大学連携支援協定(2009.03.17)
- 科学技術館と教育連携に関する基本協定(2016.02.18)
- 大妻女子大学と人間文化研究機構国立民族学博物館との学術交流・協力に関する基本協定書(2018.04.01)
- 国立科学博物館と国立科学博物館大学パートナーシップ締結(2008.05.13)
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における大学との連携に関する協定(2014.09.01)
- 社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩加盟大学・短期大学間の単位互換に関する包括協定書(2007.05.19)
- 大妻女子大学博物館と一般財団法人大妻コタカ記念会との連携に関する協定書(2016.04.27)
- 「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座の実施及びこれに係る協定書(2018.04.13)

2018年(平成30年)海外留学・国際協力に関する協定校

国際交流支援グループ
2018年(平成30年)7月20日現在

- Australia: Monash大学 English Language Centre/ Deakin大学
- Canada: Douglas大学
- China: 北京師範大学 国際交流与合作処/大連外国語大学 漢学院/南開大学 漢語言文化学院/雲南大学
- France: Rennes第2大学
- Germany: Freiburg大学 Language Teaching Centre (SLI) of the Faculty of Philology/ Münster大学 Language Centre
- Korea: 梨花女子大学校/国民大学校/明知大学校
- Spain: San Jorge大学
- Taiwan: 国立台湾師範大学 国語教学センター/国立台北教育大学/国立台湾大学 文学院語文センター
- United Kingdom: Oxford大学Hertfordカレッジ/Global Engagement Office, University College London
- United States of America: Saint Joseph大学/Murray州立大学/California大学 Riversdale校 International Education Programs/Utah大学 English Language Institute/California州立大学 Chico校

大妻学院の歴史

※日付が不明なものは「- (ハイフン)」で表記

西暦年(邦暦)	学院 大学院 大学・短大 大妻・大妻多摩 中学・高校 中野・嵐山 中学・高校
1908(明治41)	裁縫・手芸の家塾を開設(麴町区紀尾井町7番地、子爵大島久直大將邸内)(9/-)
1909(明治42)	山階宮家の官舎に移転(麴町区富士見町5丁目3番地)(12/-)
1910(明治43)	山階宮家の認可によって私塾を東京女子技芸教授所と命名(4/-)
1911(明治44)	
1912(明治45/大正元)	
1913(大正2)	
1914(大正3)	大妻技芸伝習所と改称(4/-)
1915(大正4)	
1916(大正5)	私立大妻技芸伝習所の設立申請(麴町区長寛)(6/6) 大妻技芸伝習所調査(9/4)／東京府知事より私立大妻技芸伝習所の設立認可(各種学校)(9/14)／私立大妻技芸学校と改名申請(9/30)
1917(大正6)	私立大妻技芸学校の校名変更認可(各種学校)(2/7)／校地・校舎の拡張(麴町区上六番町7の現在の校地の北側の一画を購入)(2/-) 校訓「恥を恐れ」・校歌制定(3/-) 現在地に移転(麴町区上六番町7)(4/16)
1918(大正7)	私立大妻幼稚園の設立認可(翌年3月廃園)(3/14)
1919(大正8)	文部大臣認可により私立大妻実科高等女学校を併設(4/16) 私立大妻技芸学校の裁縫部に夜学部の設置認可(12/27)
1920(大正9)	
1921(大正10)	大妻技芸学校と校名改称(2/5)／大妻技芸学校に本科高等技芸科を増設(4/-) 大妻実科高等女学校を4年制の私立大妻高等女学校に組織変更(3/10)
1922(大正11)	大妻中等夜学校(各種学校)の設立認可(定員500名)／大妻技芸学校を実業学校(職業学校規定)に組織変更(本科定員1,100名) 新校舎落成(木造5階建、約2,409㎡)
1923(大正12)	関東大震災のため校舎焼失(9/1)／実践女学校・淑徳女学校・女子商業学校等の教室を借りて、分散授業を開始(9/7) 私立大妻高等女学校の廃止認可(実科を廃止して、本科のみの高等女学校令による大妻高等女学校となる)(12/28)
1924(大正13)	大妻技芸学校本科高等技芸科を高等技芸科と改称(3/31)／大妻技芸学校本科・技芸科・実業科に4年制高等女学校と同等の指定(3/-) 再建校舎落成(3/-) 大妻実科高等女学校の廃止認可(12/20)
1925(大正14)	大妻中等夜学校を廃止し、大妻技芸学校に技芸科第2部(夜間)を設置(高等女学校と同等と認定される)(4/-)
1926(大正15/昭和元)	大妻技芸学校に高等家政科(修業年限3ヶ年)を増設(1/27) 大妻技芸学校の本科技芸科を本科第1部と改称(4/-)／大妻技芸学校の技芸科第2部を本科第2部と改称(4/-) 設立10周年記念式典挙行(10/-)
1927(昭和2)	
1928(昭和3)	大妻技芸学校の高等技芸科卒業生に中等教員裁縫科の無試験検定が認可(1/21)
1929(昭和4)	財団法人大妻学院認可(3/16)／大妻夫妻全財産を法人に寄付(5/5) 大妻技芸学校に家庭部新設(4/1)／大妻技芸学校・大妻高等女学校の設置者を財団法人に変更の認可(5/21) 東郷元帥来校講演(10/23)
1930(昭和5)	大妻技芸学校高等家政科・高等技芸科卒業生に対し、小学校専科正教員免許無試験検定認可(10/2)
1931(昭和6)	大妻技芸学校裁縫高等科・同第2部高等科卒業生に対し、小学校専科(裁縫科)教員免許無試験検定認可(3/25) 大妻技芸学校高等技芸科研究科卒業生に対し、中等教員刺繡編物免許無試験検定認可(5/9)
1932(昭和7)	大妻高等女学校、大妻技芸学校校舎増築の件認可(3階建5教室延353㎡)(6/22)
1933(昭和8)	大妻技芸学校高等技芸科研究科卒業生に中等教員編物科免許無試験検定認可(6/26)
1934(昭和9)	学校規則一部改正により、大妻技芸学校別科を選攻科と改称する(3/-)
1935(昭和10)	校舎新築に着手、鉄筋5階建(現在の大学千代田校舎)(4/-) 大妻技芸学校高等技芸科卒業生に中等教員刺繡科、高等家政科卒業生に中等教員家事科免許無試験検定認可(6/6)
1936(昭和11)	鉄筋校舎完成(落成式は昭和12年10月21日)(6/16)
1937(昭和12)	大妻高等女学校の修業年限を5年に変更(3/1) 鉄筋校舎落成式ならびに寄宿舎落成(校舎9,719㎡、寄宿舎828㎡、校地6,600㎡購入)(10/21)
1938(昭和13)	
1939(昭和14)	大妻技芸学校本科第2部を大妻第二技芸学校本科に組織変更(2/25)
1940(昭和15)	大妻第二技芸学校専修科廃止、本科の他に別科、師範科、高等師範科を併設(8/23)
1941(昭和16)	牛込区加賀町柳田國男の宅地を建物とともに購入(3/-)／牛込区加賀町に第二寄宿舎竣工(現在の加賀寮所在地)(5/5) 創立25周年祝賀式挙行(11/20)
1942(昭和17)	大妻女子専門学校設立認可、大妻技芸学校高等科を吸収、家政科、技芸科及び家庭科を設置(3/31)／大妻女子専門学校に商経科の増設認可(11/9)
1943(昭和18)	大妻技芸学校を大妻高等女学校に併合(9/-)／大妻第二高等女学校の設置認可申請(9/10)
1944(昭和19)	大妻女子専門学校、育児科・保健科・被服科・経済科の4科となる(定員1,500名)(3/-) 学徒戦時勤労動員実施により、教員生徒は沖電気、日産自動車、借行社軍服工場(校内)、海軍被服廠その他に動員される(4/-)

西暦年(邦暦)	学院 大学院 大学・短大 大妻・大妻多摩 中学・高校 中野・嵐山 中学・高校
1945(昭和20)	大妻女子専門学校卒業者に中等教員免許科目決定(1/26) 木造校舎全部、鉄筋校舎3階以上が焼失、第1寄宿舎も焼失(3/10)
1946(昭和21)	大妻技芸学校・大妻高等技芸学校本科・大妻第二技芸学校を廃止し、大妻高等女学校・大妻学院高等女学校(新設―夜間)に併合改組(5/1) 大妻技芸学校裁縫高等科を廃止、大妻女子専門学校に別科専修を設置(5/1)／大妻洋裁学院設置認可(5/31)
1947(昭和22)	大妻洋裁学院を大妻技芸学院と改称(3/28)／大妻女子専門学校経済科の生徒募集停止、第2部併設認可(5/14) 大妻中学校設置(4/1)
1948(昭和23)	大妻高等女学校・大妻学院高等女学校は卒業を待つて廃止(3/10)／大妻学院高等女学校第1学年修了者は大妻学院中学校卒業として認可(3/23) 大妻女子専門学校育児科の生徒募集停止、被服科の募集定員変更(4/-) 講堂等、木造2階建竣工(8/30) 大妻高等学校設置認可(3/10)／大妻学院高等学校設置認可(3/10)
1949(昭和24)	大妻女子専門学校の生徒募集停止(3/25)／大妻女子大学家政学部被服学科・食物学科・家庭理学科・別科設置(3/25) 大妻高等学校設置(4/1)／大妻学院高等学校設置(4/1)
1950(昭和25)	大妻女子大学家政学部被服学科・食物学科を家政学科に統合(3/14)／大妻女子大学別科(被服科・食物科)附設(3/14) 大妻女子大学短期大学部家政科第一部・第二部設置(3/14)
1951(昭和26)	財団法人大妻学院を学校法人大妻学院に組織変更(2/21) 大妻女子専門学校を学制改革により廃止(3/31)
1952(昭和27)	元第1寄宿舎跡に中学校舎竣工(10/-) 短期大学部学生定員変更(2/20)
1953(昭和28)	大妻高等技芸学院を大妻高等技芸学校と改称(3/-)／大妻高等学校に家庭科併設(4/1) 新校旗、校歌制定(4/1)／創立45周年記念式典挙行(10/15)
1954(昭和29)	本館鉄筋コンクリート5階建増築(5/-) 家政学部家庭理学科廃止(5/29)
1955(昭和30)	
1956(昭和31)	大妻中学校・高等学校新校舎第1期工事落成(9/20)
1957(昭和32)	
1958(昭和33)	千葉県富津町臨海寮開設(7/1) 創立50周年記念式典挙行(11/11) 短期大学部家政科第一部学生定員変更(2/17)
1959(昭和34)	講堂等焼失(2/23)
1960(昭和35)	家政学部家政学科学学生定員変更(2/15)
1961(昭和36)	大妻講堂竣工(2/22)／山梨県有地ハヶ岳山麓清里高原に寮設置のため借地(2/-)
1962(昭和37)	
1963(昭和38)	
1964(昭和39)	山梨県ハヶ岳山荘開設(8/1) 大妻高等学校家庭科廃止認可(4/1)／大妻中学校・高等学校、校舎第4期工事落成式計画(4/-)
1965(昭和40)	大妻学院高等学校廃校(3/31)／大妻高等技芸学校廃校(6/23) 大妻中学校・高等学校校舎増築完成(4/-)
1966(昭和41)	千代田校:大学新館竣工(11/-)／埼玉県入間市狭山台校地82,562㎡を購入(9/-)
1967(昭和42)	狭山台校:校舎(1号館)竣工(4/1)／大妻女子大学狭山台校開設(4/1) 文学部国文学科・英文学科、短期大学部国文科・英文科設置認可(1/23)／文学部国文学科・英文学科、短期大学部国文科・英文科設置(4/1) 家政学部家政学科を専攻分離し家政学専攻・管理栄養士専攻設置認可、管理栄養士養成施設認定(12/22) 家政学部被服学科・児童学科設置認可、家政学部家政学科を食物学科に名称変更、家政学部家政学専攻を食物学専攻に名称変更の認可(12/28) 短期大学部家政科第一部を専攻分離し家政専攻・食物栄養専攻設置認可(12/28)
1968(昭和43)	狭山台校:校舎(2号館)竣工(4/-) 大妻学院創立60周年記念式典挙行(10/30日本武道館) 家政学部被服学科・食物学科(食物学専攻・管理栄養士専攻)・児童学科設置(4/1) 短期大学部家政科家政専攻・食物栄養専攻設置(4/1)
1969(昭和44)	大妻女子大学加賀寮竣工(2/-) 家政学部食物学科食物学専攻学生定員変更認可(1/6) 大妻女子大学別科第二部廃止(3/31)
1970(昭和45)	大妻コタカ逝去(享年85歳)(1/3)／大妻コタカ学院葬(1/13大妻講堂) 千代田校:図書館棟(鉄筋コンクリート造、地上8階、地下2階建)新築完成(8/1)／大妻学院本館竣工(9/19) 家政学部児童学科に児童学専攻・児童教育学専攻を設置及び学生定員変更(1/12)
1971(昭和46)	大妻女子大学中野女子高等学校、大妻女子大学嵐山高等学校が大妻女子大学傘下に入る(4/1)
1972(昭和47)	加賀寮第6期工事(鉄筋コンクリート造、地上4階、地下1階建)竣工全計画を完了(3/1) 千代田校:大妻記念会館竣工(4/28)／狭山台校:体育館竣工(10/-) 大学院家政学研究科食物学専攻(修士)、文学研究科国文学専攻(修士)・英文学専攻(修士)設置認可(3/30) 大学院家政学研究科食物学専攻(修士)、文学研究科国文学専攻(修士)・英文学専攻(修士)設置(4/1)
1973(昭和48)	家政学部児童学科に児童臨床相談室を設置(7/1)
1974(昭和49)	短期大学部家政科食物栄養学専攻、内容変更承認(1/31) 家政学部食物学科管理栄養士専攻内容変更承認(3/20)
1975(昭和50)	家政学部別科第一部廃止(3/12)
1976(昭和51)	狭山台校:寮管理棟・食堂棟竣工(8/-) 短期大学部学生入学定員変更認可(家政学第1部家政専攻400名・国文科200名・英文科200名)(2/28) 家政学部及び文学部学生定員変更認可(被服学科100名・食物学科食物学専攻50名・児童学科児童学専攻40名・同児童教育専攻60名・国文学科100名・英文学科100名)(2/28)
1977(昭和52)	狭山台校:学生寮(1・2号棟)竣工(8/-) 大学院家政学研究科児童学専攻(修士)設置認可(3/30)／大学院家政学研究科児童学専攻(修士)設置(4/1)

西暦年(邦暦)	学院	大学院	大学・短大	大妻・大妻多摩 中学・高校	中野・嵐山 中学・高校
1978(昭和53)		狭山台校:1号館増築部分竣工(3/-)／大妻中学校・高等学校第2グラウンド隣接地買収(9/30) 大妻学院創立70周年記念式典挙行(10/16日本武道館)			
1979(昭和54)		狭山台校:学生寮(3号棟)竣工(3/-)			
1980(昭和55)		大学院家政学研究科被服学専攻(修士)設置認可(3/26)／大学院家政学研究科被服学専攻(修士)設置(4/1) 大妻中学校・高等学校芸術棟増築完成(7/1)			
1981(昭和56)		人間生活科学研究所設置(4/1)			
1982(昭和57)		狭山台校:人間生活科学研究所棟竣工(3/20) 大学院家政学研究科被服環境学専攻(博士)設置認可(3/17)／大学院家政学研究科被服環境学専攻(博士)設置(4/1)			
1983(昭和58)		狭山台校:保存書庫棟竣工(5/30)			
1984(昭和59)					
1985(昭和60)		大妻講堂解体(12/-)／大妻講堂解体を皮切りに順次大学校舎の全面改築工事開始 視聴覚教育センターを情報処理・視聴覚教育センターに名称変更(4/1) 短期大学部各科期間を付した臨時定員増認可(12/25)			
1986(昭和61)		千代田校:大妻学院体育館竣工(3/17)／多摩ニュータウン唐木田地区土地(10.26ha)住宅・都市整備公園より購入(7/2) 短期大学部各科期間を付した臨時定員増(4/1)			
1987(昭和62)		多摩校を整備し建築着工(短大講義棟、図書館棟、体育館、高校校舎、大妻文化センター)(3/1)／千代田校:大学校舎(A棟)竣工(6/8) 短期大学部生活科・日本文学科・実務英語科設置認可(12/23) 大妻高等学校収容定員変更認可(11/2)			
1988(昭和63)		多摩校:短期大学部棟、図書館棟、体育館棟、文化センター、高校校舎竣工(3/16)／大妻多摩校開学記念式典挙行(5/28大妻多摩体育館) 短期大学部生活科・日本文学科・実務英語科設置(4/1) 大妻多摩高等学校設置認可(3/15)／大妻多摩高等学校設置(4/1)			
1989(昭和64/平成元)		千代田校:大学校舎(B棟)竣工(2/28) 大妻学院創立80周年記念式典挙行(10/2日本武道館)			
1990(平成2)		千代田校:大学校舎(C棟)竣工(8/31) 大学・短期大学部を分離(4/1)／保健室及び学生相談室を改組し健康センター設置(4/1) 短期大学部生活科・日本文学科・実務英語科期間を付した臨時定員増認可(12/21) 大妻高等学校募集停止6年完全一貫校に(4/1)			
1991(平成3)		短期大学部生活科・日本文学科・実務英語科期間を付した臨時定員増(4/1) 社会情報学部社会情報学科設置認可(12/20)			
1992(平成4)		多摩校:社会情報学部棟竣工(2/29)／社会情報学部開学式記念式典挙行(5/16大妻多摩体育館) 千代田区三番町5番地4不動産購入(土地113.26㎡建物延べ面積427.69㎡)[大妻学院別館](3/27) 千葉県富津市臨海寮廃寮(3/31) 狭山台校:学生会館竣工(8/31)／千代田校:大妻講堂、大学校舎(D棟)竣工(12/5) 社会情報学部社会情報学科(社会生活情報学専攻・社会環境情報学専攻・社会情報処理学専攻)設置(4/1)／家政学部に児童臨床研究センター設置(4/1)			
1993(平成5)		「創立者大妻コタカ」ブロンズ立像大妻講堂ロビー設置(大妻コタカ記念会寄贈)(3/17) 千代田校:大学校舎並びに講堂完成披露式典挙行(11/13大妻講堂) 情報処理・視聴覚教育センターを改組し情報処理教育センター及び教育工学開発室設置(4/1) 大妻多摩中学校設置認可(9/16)			
1994(平成6)		多摩校:食堂増築棟竣工(3/25) 大妻多摩中学校設置(4/1)			
1995(平成7)		大学院社会情報研究科社会生活情報専攻(修士)設置、大学院文学研究科国文学専攻(博士)・英文学専攻(博士)設置認可(12/22) 大学院家政学研究科被服環境学専攻(博士)を家政学研究科人間生活学専攻(博士)に変更・改組認可(12/22)			
1996(平成8)		狭山台校:図書館棟・守衛所棟竣工(4/15) 大学院文学研究科国文学専攻(博士)・英文学専攻(博士)及び社会情報研究科社会生活情報専攻(修士)設置(4/1) 大学院家政学研究科被服環境学専攻(博士)を家政学研究科人間生活学専攻(博士)に名称変更・改組(4/1) 大妻多摩中学校・高等学校「クラウンホール」竣工(4/5) 大妻中学校・高等学校校舎耐震補強工事完了(9/2)			
1997(平成9)		大学院家政学研究科被服環境学専攻博士(後期)課程廃止(3/31) 大妻多摩中学校・高等学校創立10周年記念式典挙行(9/21)			
1998(平成10)		多摩校:人間関係学部棟竣工(9/30) 大妻学院創立90周年記念式典挙行(11/20東京国際フォーラム) 文学部国文学科を日本文学科に名称変更(4/1) 人間関係学部人間関係学科・人間福祉学科、比較文化学部比較文化学科設置認可(12/22)／社会情報学部社会情報学科定員増の変更認可(12/22)			
1999(平成11)		多摩校:学生会館竣工(6/30)／人間関係学部・比較文化学部開学記念式典挙行(11/6多摩校学生会館3階大講義室) 人間関係学部人間関係学科・人間福祉学科、比較文化学部比較文化学科設置(4/1) 社会情報学部社会情報学科定員増(4/1) 文学部に草稿・テキスト研究所設置(4/1) 短期大学部期間を付した臨時定員増の延長認可(7/28) 大妻多摩高等学校募集停止6年完全一貫校に(4/1)			
2000(平成12)		多摩校:短期大学部(生活科・日本文学科・実務英語科)閉校に伴うお別れ会挙行(1/22多摩校学生会館3階大講義室) 多摩校:比較文化学部棟(旧短期大学部棟)改修工事及び図書館棟改修拡張工事完了(9/20) 短期大学部期間を付した臨時定員増の延長(4/1) 大妻女子大学生活科学資料館設置(10/20)			
2001(平成13)		短期大学部生活科・日本文学科・実務英語科廃止(3/31) 情報処理教育センターと教育工学開発室を合併し情報メディアセンターに改組(4/1) 家政学部ライフデザイン学科、文学部コミュニケーション文化学科設置認可(5/29) 短期大学部期間を付した収容定員変更認可(5/29) 大妻中学校・高等学校校舎全面改築工事開始／校舎増改築のため大妻高校千代田区神田東松下町(旧千桜小学校)へ仮移転(千桜校舎)(10/20)			
2002(平成14)		大妻コタカ甲山町名誉町民章を授与(5/18) 千代田区三番町5番地36不動産購入(土地119.82㎡建物延べ面積394.18㎡)[大妻学院別館2](5/31) 大学院人間関係学研究科社会学専攻(修士)・臨床社会心理学専攻(修士)設置認可(12/19) 短期大学部期間を付した収容定員変更(4/1) 家政学部ライフデザイン学科、文学部コミュニケーション文化学科設置(4/1) 大妻中学校収容定員変更(900名→840名)(10/4)／大妻多摩中学校収容定員変更(360名→420名)(9/30)			

西暦年(邦暦)	学院	大学院	大学・短大	大妻・大妻多摩 中学・高校	中野・嵐山 中学・高校
2003(平成15)		千代田校:大妻女子大学図書館棟竣工(1/20) 大学院人間関係学研究科社会学専攻(修士)・臨床社会心理学専攻(修士)設置(4/1) 短期大学部家政科第二部廃止(3/31)／短期大学部家政科第一部専攻課程間の期間を付した収容定員変更認可(5/9) 大妻女子大学心理相談センター開設(4/1) 家政学部・文学部2年次の履修地が狭山台校から千代田校に変更(4/1) 大妻中学校・高等学校第一期工事校舎竣工(12/20)／大妻多摩中学校・高等学校増築棟竣工(8/29)			
2004(平成16)		清里山荘解体、借地を山梨県に返還(3/31) 大学院人間関係学研究科臨床社会心理学専攻(修士)を臨床心理学専攻(修士)に名称変更認可(10/27) 短期大学部家政科第一部専攻課程の期間を付した収容定員変更(4/1)			
2005(平成17)		大学院人間関係学研究科臨床社会心理学専攻(修士)を臨床心理学専攻(修士)に名称変更(4/1) 大妻中学校・高等学校第二期工事体育館竣工(3/20)／校舎竣工式挙行(7/2)			
2006(平成18)		千代田区三番町8番地7ほか不動産購入(土地3,130.66㎡建物延べ面積16,203.38㎡)(2/20) 大妻学院収益事業を開始(2/20)／大妻学院100%出資会社「(株)大妻サポート」設立(6/1) 健康センター学生相談部門が独立し学生相談センターを開設(10/1)／生活科学資料館を大学・短大の附属施設に改組(12/19) 大妻高等学校収容定員変更(900名→840名)(4/1)／大妻多摩高等学校収容定員変更(360名→420名)(4/1)			
2007(平成19)					
2008(平成20)		大妻学院のミッションと経営指針～創立100周年を迎え共に取り組むために～発表(9/24) 「創立者大妻コタカ」胸像多摩キャンパス学園通りに設置(大妻コタカ記念会寄贈)(10/15) 大妻学院創立100周年記念式典挙行(11/7東京国際フォーラム) 大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部機関別認証評価大学基準適合の認定(大学評価・学位授与機構)(3/27) 人間生活科学研究所を人間生活文化研究所に改組(4/1)／図書館と情報メディアセンターを合併し総合情報センターに改組(4/1) 大妻多摩中学校・高等学校増築棟竣工(3/20)			
2009(平成21)		社会情報学部社会情報学科社会環境情報学専攻を環境情報学専攻、社会情報処理学専攻を情報デザイン専攻、人間関係学部人間関係学科社会心理学専攻を社会・臨床心理学専攻に名称変更(4/1) 多摩市立子育て総合センター業務受託開始(10/1) 大妻多摩中学校・高等学校創立20周年記念式典挙行(5/2) 大妻中学校・高等学校及び大妻多摩中学校・高等学校専任教員の国内・国外研修の制定(実施は平成22年度から)(7/28)			
2010(平成22)		加賀寮フェンスに「柳田國男旧居跡」説明板設置(11/4) 大学院家政学研究科、文学研究科、社会情報研究科、人間関係学研究科を統合改組し人間文化研究科を設置(4/1)			
2011(平成23)		千代田校:大妻学院本館(E棟)建築のため建物解体(6/-) 大学院社会情報研究科を廃止(3/31) 生活科学資料館が博物館相当施設として指定(東京都教育委員会)(2/21) キャリア教育センター・教職総合支援センター設置(4/1) 短期大学部家政科入学定員減及び短期大学部家政科生活総合ビジネス専攻設置(4/1)			
2012(平成24)		世田谷区北烏山4-1395-2不動産購入(土地4,001.95㎡建物延べ面積4,484.7㎡購入)[大妻久我山寮](3/19)／大妻久我山寮開寮(4/1) 大妻記念会館全面改築に伴い「大妻コタカ居室」大妻女子大学博物館へ移設工事完了(4/17) 学校法人大妻学院と学校法人誠美学園の合併認可(10/31) 大学院文学研究科・人間関係学研究科を廃止(3/31) 生活科学資料館を大妻女子大学博物館に名称変更(4/1) 大学専任教員サバティカルを制定(実施は平成26年度から)(5/28)			
2013(平成25)		千代田校:大妻学院本館(E棟Ⅰ期工事分)竣工(3/7)／大妻良馬・コタカ遷座祭[大妻記念会館から本館E棟12階へ](3/11) 学校法人大妻学院が学校法人誠美学園を吸収合併(存続学校法人は大妻学院)(4/1) 千代田校:大妻学院本館・記念会館・別館・別館2及び大妻女子大学加賀寮解体(4/-) 大妻女子大学加賀寮閉寮(3/31)／加賀寮隣接地市谷加賀町2丁目24番8、9、10不動産購入(土地192.84㎡)(12/5) 短期大学部家政科家政専攻・国文科・英文科入学定員減(4/1) 家政学部・文学部・社会情報学部・人間関係学部・比較文化学部3年次編入学定員の制定(4/1) 地域連携推進センター・国際センター設置(4/1) 大妻女子大学教育推進機構発足(4/1)／大妻女子大学教員評価開始(4/1) 大妻中野中学校・高等学校新館(2号館)竣工(3/1)・新館竣工式挙行(10/5)			
2014(平成26)		千代田校:大妻女子大学別館(J棟)竣工(2/28)／大妻学院本館(F棟Ⅱ期工事分)竣工(9/2)／大妻学院本館(E棟・F棟)竣工式挙行(10/11) 千代田校:大妻学院体育館解体及び大学校舎(G棟)建築着工(10/1) 大学院人間文化研究科言語学専攻(博士)に国際文化専修を増設(4/1) 多摩市立子育て総合センター業務受託終了(3/31) 大妻多摩中学校・高等学校図書館棟増築着工(9/-) 大妻嵐山中学校・高等学校多目的広場内嵐山町所有不動産購入(土地50㎡)(7/31)			
2015(平成27)		大妻加賀寮竣工(2/16)／大妻加賀寮竣工式挙行(3/8)／大妻加賀寮開寮(4/1) 千代田区三番町8番地4宅地購入(土地91㎡)(3/4) 大妻女子大学狭山台校閉校式挙行(3/7)／大妻女子大学狭山台校閉校(3/31) 大学院家政学研究科を廃止(3/31) 大妻女子大学短期大学部機関別認証評価大学基準適合の認定(短期大学基準協会)(3/13) 大妻女子大学機関別認証評価大学基準適合の認定(大学評価・学位授与機構)(3/26) 家政学部・文学部履修地全学年千代田校に変更(4/1) 家政学部食物学科食物学専攻入学定員増(4/1) 短期大学部家政科家政専攻、食物栄養専攻、国文科、英文科入学定員減(4/1)			
2016(平成28)		狭山台校:テニスコートほか飛び地を含む土地売却(土地26,560.00㎡)(2/24) 千代田区三番町28番地1不動産購入(土地1,481.67㎡)(5/31)／千代田校:大学校舎(H棟)竣工(5/31) 比較文化学部1年次の履修地が多摩校から千代田校に変更(4/1) 管理栄養士スキルアップセンター設立(7/14)			
2017(平成29)		千代田校:大学校舎(G棟)竣工(2/15)／大学校舎(G棟・H棟)竣工式挙行(3/28) 狭山台校:道路拡張のため土地を入間市へ寄贈(土地264.00㎡)(5/8)、校地校舎売却(土地83,138.00㎡建物延べ面積25,060.33㎡)(6/30) 広島県世羅町にある「大妻コタカ生家」の保存管理維持を熊田家から一般財団法人大妻コタカ記念会に移譲(10/-) 大妻女子大学博物館に大妻コタカ・良馬研究所を開設(4/1)／英語教育研究所設立(4/1) 社会情報学部1年次及び比較文化学部全学年の履修地が多摩校から千代田校に変更(4/1) 家政学部(食物学科・児童学科児童学専攻を除く)・文学部・比較文化学部入学定員増(4/1)			
2018(平成30)		千代田区三番町5番地40、41 不動産購入(土地346.78㎡建物延べ面積1,571.11㎡)(2/28)／千代田校:大学校舎(K棟・部室、茶室ほか)竣工(3/1) 社会情報学部全学年の履修地が多摩校から千代田校に変更(4/1)			